

科目名	創造プロジェクト I
英文科目名	Products Development Project Program I
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	1年生担任
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>授業の概要：担任教員を中心に、本学科で学ぶ意義や新入生として勉学に取り組む姿勢を示す。また、学内外エクスカージョンを通じて集団行動の重要性を学ぶ。 到達目標：大学で学ぶ意義の理解を深めると共に、相互協力の重要性も理解し集団行動が円滑にできるようにする。また、担任教員より示されるレポート等の課題により、大学生として一定水準以上の自己表現力を習得できるようにする。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>【事前】 大学の施設、行田の歴史を予習する。 【事後】 提示された課題について学生間でディスカッションを行い、次の授業に活かす。</p>
授業の内容	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 学内エクスカージョン 01：大学内の実験・実習設備の設置場所および用途について理解を深める</p> <p>第3回 学内エクスカージョン 02：大学内の図書館の利用方法について理解を深める</p> <p>第4回 学内イクスカージョン 03：グループごとに学内マップを作成</p> <p>第5回 学外エクスカージョン 01：地元行田の風土についての理解を深める</p> <p>第6回 学外エクスカージョン 02：地元行田の歴史的建造物についての理解を深める</p> <p>第7回 学外エクスカージョン 03：地元行田の風土や歴史的建造物についての理解を深める</p> <p>第8回 学外エクスカージョン 04：各自で行田市の歴史的建造物に関する調査レポートを作成</p>
教科書	各教員から指示される場合がある。
参考書	各教員から指示される場合がある。
主な実験・実習機器	各教員から指示される場合がある。
成績評価の方法	授業態度（50%）および課題（50%）により評価する。
履修上の注意点	実施要領その他の詳細は、ガイダンスにて指示されるので必ず出席すること。 課題については、採点した後に返却する。

科目名	ものづくり・ひとつくり総合講義A
英文科目名	General Lecture for Technologists A
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	土居 浩
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>【授業概要】日頃はさほど意識していない「はなす」「みる」「きく」あるいは「文章を読む／書く」といった行為を、スキルとしてとらえ訓練する。</p> <p>【到達目標】授業での実践を通して、大学での「まなぶ」姿勢を身につける。ひいては受講者各人の「メディアカ」（これについては講義中に説明する）向上を目指す。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>履修要項を熟読しておく</p> <p>期末課題へ向けてチームでこまめに連絡・調整しておく</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>期末課題（発表とレポート）へ向けての段取りを相談する</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>期末課題へ向けて関連資料を探す</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>期末課題へ向けて集めた資料の妥当性を吟味する</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>期末発表を試みる</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>期末発表の試みを踏まえて調整する</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>期末発表の試みを踏まえて最終調整する</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>期末発表</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>期末発表に対する講評</td> </tr> </table>	第1回	期末課題（発表とレポート）へ向けての段取りを相談する	第2回	期末課題へ向けて関連資料を探す	第3回	期末課題へ向けて集めた資料の妥当性を吟味する	第4回	期末発表を試みる	第5回	期末発表の試みを踏まえて調整する	第6回	期末発表の試みを踏まえて最終調整する	第7回	期末発表	第8回	期末発表に対する講評
第1回	期末課題（発表とレポート）へ向けての段取りを相談する																
第2回	期末課題へ向けて関連資料を探す																
第3回	期末課題へ向けて集めた資料の妥当性を吟味する																
第4回	期末発表を試みる																
第5回	期末発表の試みを踏まえて調整する																
第6回	期末発表の試みを踏まえて最終調整する																
第7回	期末発表																
第8回	期末発表に対する講評																
教科書	<p>大島弥生・大場理恵子・岩田夏穂・池田玲子（2012）『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房</p>																
参考書	<p>小笠原喜康（2009）『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社（現代新書）</p> <p>ほかは講義中に提示する。</p>																
主な実験・実習機器	<p>いわゆる大学ノートおよび手帳・メモ帳（野帖も可）</p> <p>3色（赤・青・緑）ボールペンまたはその機能を代替する筆記用具</p>																
成績評価の方法	<p>期末発表への参加を条件として、期末レポートを評価対象とする。</p> <p>期末レポート100%で評価する。</p>																
履修上の注意点	<p>「大学論」とのセット科目です。2コマ通しの講義として、学期の前半4回（8コマ分）を「大学論」、学期の後半4回（8コマ分）を「ものづくり・ひとつくり総合講義A」として構成しています。構成上、前半だけあるいは後半だけの受講は、できません。</p> <p>上記「授業の内容」はあくまで目安です。クラスの学習状況によっては、変更がありえます。</p> <p>日本語を母語としない受講者については、個別対応も考慮するので、事前に土居まで相談に来ること。年度初めの学年別ガイダンス日に応じます。</p> <p>総合レポートのフィードバックは、翌学期のオフィスアワーで対応します。</p>																

科目名	大学論
英文科目名	General Lecture of First-Year Eperience
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	土居 浩
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>【授業概要】基本的なレポートの書き方など、FYEの基礎を学びつつ、大学でのまなびについて概観する。</p> <p>【到達目標】いわゆる「指示待ち」の身体性を分解・再構築し、これから「まなぶ」ための姿勢をみにつける。たとえば「○○に準じる」とあれば、参照すべき○○を自分で探し出して確認できるようになることから始め、より高次の臨機応変な姿勢を身につける。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>履修要項を熟読しておく 返却された学習レポートの加筆修正をする（細かな手順については講義中に説明する）。</p>
授業の内容	<p>第1回 この授業で何を学ぶかを知る</p> <p>第2回 求められていることはなにかを、確認する。</p> <p>第3回 話したい内容を整理し、相手に伝える</p> <p>第4回 必要な情報を整理する</p> <p>第5回 整理した情報を使って伝える</p> <p>第6回 スピーチを準備する</p> <p>第7回 スピーチする</p> <p>第8回 スピーチを通じて、お互いをリソースとして発見する</p>
教科書	<p>小笠原喜康（2009）『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社（現代新書）</p>
参考書	<p>大島弥生・大場理恵子・岩田夏穂・池田玲子(2012)『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房 名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科(2014)『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房 ほかは講義中に提示する。</p>
主な実験・実習機器	<p>いわゆる大学ノートおよび手帳・メモ帳（野帖も可） 3色（赤・青・緑）ボールペンまたはその機能を代替する筆記用具</p>
成績評価の方法	<p>毎回の提出課題を累積して評価する。</p>
履修上の注意点	<p>「ものづくり・ひとつくり総合講義A」とのセット科目です。2コマ通しの講義として、学期の前半4回（8コマ分）を「大学論」、学期の後半4回（8コマ分）を「ものづくり・ひとつくり総合講義A」として構成しています。構成上、前半だけあるいは後半だけの受講は、できません。</p> <p>上記「授業の内容」はあくまで目安です。クラスの学習状況によっては、変更がありえます。</p> <p>日本語を母語としない受講者については、個別対応も考慮するので、事前に土居まで相談に来ること。年度初めの学年別ガイダンス日に応じます。</p> <p>提出課題のフィードバックは、授業内で実施します。</p>

科目名	建設数学 I
英文科目名	Mathematics for Construction and Exercises I
対象	2018建設学科
配当年次	1 年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	新井 幸男、大谷 芳滋、星野 隆一
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要 建設の構造計算などが必ずしも高度な数学的知識を必要とするような難しいものでないことを理解するために、ここでは、四則演算程度の数学を学習しながら、建設に数学を活用することの意味を理解する。</p> <p>2. 到達目標 各種の計算方法を理解し、建設に関係する数学の基礎知識を習得する。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>事前：下記の授業内容について教科書を読んでおくこと。 事後：授業時のノート・配布プリントや教科書の問題等の解答を再確認すること。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>数と式の計算</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>式の計算</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>方程式</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>1回から3回のまとめ、面積と体積</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>関数とグラフ</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>三角比</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>三角関数</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>建設数学 I に関するまとめと期末試験</td> </tr> </table>	第1回	数と式の計算	第2回	式の計算	第3回	方程式	第4回	1回から3回のまとめ、面積と体積	第5回	関数とグラフ	第6回	三角比	第7回	三角関数	第8回	建設数学 I に関するまとめと期末試験
第1回	数と式の計算																
第2回	式の計算																
第3回	方程式																
第4回	1回から3回のまとめ、面積と体積																
第5回	関数とグラフ																
第6回	三角比																
第7回	三角関数																
第8回	建設数学 I に関するまとめと期末試験																
教科書	「大学新入生のための数学入門」、石村 園子 著、共立出版																
参考書	必要に応じて参考プリントを配布する。 また、数学に関する参考書は多種あるので、図書館を活用するとよい。																
主な実験・実習機器	関数機能付き電卓を持参すること。																
成績評価の方法	出席・授業・配布プリントへの取り組み姿勢を20%、期末試験を80%の割合で評価する。																
履修上の注意点	「建設数学 II」と連携しているので、合わせて履修するのが望ましい。 提出課題・試験等の答えは採点后に返却する。返却の日時は掲示する。																

科目名	建設数学Ⅱ
英文科目名	Mathematics for Construction and Exercises II
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	新井 幸男、大谷 芳滋、星野 隆一
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要 関数、微分、積分の根本的意味を再認識する。高度な数学が必要な構造計算などでは、コンピュータプログラムの発展によって計算過程はブラックボックスになりがちであるが、建設における計算の基本的な仕組みを学習する。</p> <p>2. 到達目標 各種の計算方法を理解し、建設に関係する数学の基礎知識を習得する。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>事前：下記の授業内容について教科書を読んでおくこと。 事後：授業時のノート・配布プリントや教科書の問題等の解答を再確認すること。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>指数関数</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>対数関数</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>関数の極限</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>微分</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>不定積分</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>定積分</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>建設の単位</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>「建設数学Ⅱ」の要点整理と期末試験</td> </tr> </table>	第1回	指数関数	第2回	対数関数	第3回	関数の極限	第4回	微分	第5回	不定積分	第6回	定積分	第7回	建設の単位	第8回	「建設数学Ⅱ」の要点整理と期末試験
第1回	指数関数																
第2回	対数関数																
第3回	関数の極限																
第4回	微分																
第5回	不定積分																
第6回	定積分																
第7回	建設の単位																
第8回	「建設数学Ⅱ」の要点整理と期末試験																
教科書	「大学新入生のための数学入門」共立出版																
参考書	<p>必要に応じて参考プリントを配布する。 また、数学に関する参考書は多種あるので、図書館を活用するとよい。</p>																
主な実験・実習機器	関数機能付き電卓を持参すること。																
成績評価の方法	出席・授業・配布プリントへの取り組み姿勢を20%、期末試験を80%の割合で評価する。																
履修上の注意点	「建設数学Ⅰ」と連携しているので、合わせて履修することが望ましい。授業内の小テストやレポート等および定期試験はチェックや採点したのちに返却するので、受け取ったら復習するとともに今後の学習のために保管しておくこと。																

科目名	建設技能工学
英文科目名	Construction Skills and Technology
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	林 英昭
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>〔概要〕建設に関わる技術者として必要な基礎的能力および国際的視野を養うため、建設のものづくりにおいて基礎となる諸概念について学ぶ。我々はどのように建築を理解しそれを造るべきか。建設のものづくりの可能性を議論する力を養いたい。</p> <p>〔目標〕建設のものづくりを理解する上で重要な諸概念について、その大要を説明できることを目指す。多様な社会において建設行為を位置づけるための基礎的知識を深めて欲しい。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>予習：毎回出題される予習課題を提出する</p> <p>復習：毎回出題される復習課題を提出する</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>授業の概要説明／空間とは何か</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>場所とは何か</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>境界とは何か</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>力の流れと建築表現</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>遺跡とは何か</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>道具とは何か</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>意匠とは何か</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>都市とは何か</td> </tr> </table>	第1回	授業の概要説明／空間とは何か	第2回	場所とは何か	第3回	境界とは何か	第4回	力の流れと建築表現	第5回	遺跡とは何か	第6回	道具とは何か	第7回	意匠とは何か	第8回	都市とは何か
第1回	授業の概要説明／空間とは何か																
第2回	場所とは何か																
第3回	境界とは何か																
第4回	力の流れと建築表現																
第5回	遺跡とは何か																
第6回	道具とは何か																
第7回	意匠とは何か																
第8回	都市とは何か																
教科書	講義ノートをProselfにて適宜配布する																
参考書	(特になし)																
主な実験・実習機器	(特になし)																
成績評価の方法	全8回の予復習課題を各12.5%として評価																
履修上の注意点	講義ノートの配布はProselfで行い、予復習課題はWebで回答とする 毎回の予復習課題は次週の授業中にフィードバックする																

科目名	地域調査
英文科目名	Introduction to Field Research
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	土居 浩
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>【授業概要】野外調査入門書の講読を通して、建築・土木・環境を専門的に学ぶ大前提としての基礎的知見を概観する。</p> <p>【到達目標】高校までの「感想文」や「レポート」とは大きく異なる、大学ならではのレポートが求められるところを理解し、期限内に評価される水準まできちんと仕上げることができる。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>教科書を熟読しておく 授業中に言及した参考書の該当箇所を確認しておく</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>建築・土木を専門的に学ぶ大前提としての地理学的知見について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>地図類と空中写真・衛星画像の利用</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>主題図の作成</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>採集レポートについて（クラスの進捗状況により前後する場合があります）</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>統計とその利用</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>GIS（地理情報システム）の利用</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>フィールドワーク</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>採集レポートふりかえり</td> </tr> </table>	第1回	建築・土木を専門的に学ぶ大前提としての地理学的知見について	第2回	地図類と空中写真・衛星画像の利用	第3回	主題図の作成	第4回	採集レポートについて（クラスの進捗状況により前後する場合があります）	第5回	統計とその利用	第6回	GIS（地理情報システム）の利用	第7回	フィールドワーク	第8回	採集レポートふりかえり
第1回	建築・土木を専門的に学ぶ大前提としての地理学的知見について																
第2回	地図類と空中写真・衛星画像の利用																
第3回	主題図の作成																
第4回	採集レポートについて（クラスの進捗状況により前後する場合があります）																
第5回	統計とその利用																
第6回	GIS（地理情報システム）の利用																
第7回	フィールドワーク																
第8回	採集レポートふりかえり																
教科書	<p>野間晴雄ほか編著（2017）『ジオ・パルNEO [第2版] 地理学・地域調査便利帖』海青社</p>																
参考書	<p>小笠原喜康(2009)『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 『情報倫理ハンドブック』noa出版 ほかは講義中に適宜紹介。</p>																
主な実験・実習機器	<p>携帯デバイス（講義中に説明）</p>																
成績評価の方法	<p>採集レポート課題80%+各回での授業実践20%</p>																
履修上の注意点	<p>この講義の進め方や評価方法・採集レポート課題などについての説明は、初回にガイダンスする。 採集レポートの提出時期等については講義初回時に説明する。この採集レポートには中間報告を義務付ける。 最終成果である採集レポートのフィードバックは、上記「授業の内容」で示すとおり、第8回に実施する。</p>																

科目名	リベラル・アーツ
英文科目名	Introduction to Liberal Arts
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	土居 浩
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>【授業概要】テキストを読み進めながら、文系／理系という単純素朴すぎる二分法を解体しつつ、建築・都市・環境・景観を学ぶために必要な様々な視座を概観する。</p> <p>【到達目標】「読む」ことを方法として再認識し、本を読む方法（特に図書館を使いこなす方法）を身につける。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>指定された教科書を毎回事前に読み、関連図書を持参すること。</p> <p>毎回事後には、授業で取り上げた箇所につき、事前作成のレジュメと照合しておくことが望ましい。</p>
授業の内容	<p>第1回 この講義の進め方や評価方法・期末課題などについて 「風景に気づく」を読むために</p> <p>第2回 「関係性に参加する」を読むために</p> <p>第3回 「場所を設える」を読むために</p> <p>第4回 「風景は公共空間である」を読むために</p> <p>第5回 「風景を再編集する」を読むために</p> <p>第6回 「場所が生まれる契機をデザインする」を読むために</p> <p>第7回 「体験をデザインする」を読むために</p> <p>第8回 「時間を生きるデザイン」を読むために</p>
教科書	<p>長谷川浩己(2017)『風景にさわる：ランドスケープデザインの思考法』丸善出版</p> <p>高田高史(2011)『図書館で調べる』筑摩書房(ちくまプリマー新書)</p>
参考書	<p>小笠原喜康(2009)『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社(現代新書)</p> <p>井上真琴(2004)『図書館に訊け!』筑摩書房(ちくま新書)</p> <p>ほかは講義中に適宜紹介。</p>
主な実験・実習機器	<p>手帳あるいはメモ帳</p>
成績評価の方法	<p>期末課題100%。これに、質疑応答などを含む授業態度を、加点あるいは減点対象として加味する。</p>
履修上の注意点	<p>期末課題の提出日など詳細については、講義中に告知する。提出された期末課題のフィードバックは、翌学期のオフィスアワーで対応する。</p>

科目名	スポーツコミュニケーション
英文科目名	Sprts Communication
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	高橋 宏樹
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>授業の概要：スポーツなどの実践を通じて、人間の体力の限界を知るとともに、チームプレイをモデルに、共同によってそれぞれの得意な力を発揮して相互に協力することや、そのために必要な情報を的確に伝え、また役割分担をすることなどを学ぶ。</p> <p>到達目標：相互に協力することの重要性、集団内における状況に応じた行動について理解し実践できる素養を身につける。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>各スポーツ種目のルールを理解しておくこと。また、各スポーツ種目について得意なことと苦手なことを整理しておくこと(予習)。自分の意図したことの中で、達成できたこと、達成できなかったこと、またそれぞれの理由について整理しておくこと(復習)。</p>
授業の内容	<p>第1回 ガイダンス、クラス編成</p> <p>第2回 バドミントン(1)、技術の見極め。</p> <p>第3回 バドミントン(2)、前回の結果をもとに作戦を立て試合を行う。</p> <p>第4回 サッカー(1)、技術の見極め。</p> <p>第5回 サッカー(2)、前回の結果をもとに作戦を立て試合を行う。</p> <p>第6回 第2回目～第5回目までを結果をもとにしての成果の中間発表会。</p> <p>第7回 バスケットボール(1)、技術の見極め。</p> <p>第8回 バスケットボール(2)、前回の結果をもとに作戦を立て試合を行う。</p>
教科書	<p>適宜プリントなどを配布する。</p>
参考書	<p>特になし。</p>
主な実験・実習機器	<p>運動ができる服装および履物。</p>
成績評価の方法	<p>出席状況20%、授業態度25%、授業中の小レポート20%、期末レポート35%として、総合的に評価する。</p>
履修上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回目にクラス編成をするので、受講者は必ず出席すること。</li> <li>・ 第2回目以降は運動のできる服および履物を着用すること。</li> <li>・ 受講者数によっては、第3回から第8回の授業の順序を変更することがあります。</li> <li>・ 成績の採点内容等については成績発表後に適宜対応しますので、希望者は直接申し出るようにして下さい。</li> </ul>

科目名	構造・材料 I
英文科目名	Structures and Materials I
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	小野 泰、戸田 都生男、大垣 賀津雄
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>1. 構造設計への入門として、基礎的な事項である力の三要素、力の釣り合い、構造物の支点と接点の種類、構造物に作用する荷重の種類、反力および構造材料の力学的性質などを学ぶ。</p> <p>2. 到達目標：各種の計算方法を理解し、構造設計の基礎知識を習得する。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>事前：下記の授業内容について教科書を読んでおくこと。</p> <p>事後：授業時のノート・配布プリントや教科書の問題等の解答を再確認すること。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>力とモーメント</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>力の合成、力の分解</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>力の釣り合い</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>第1回から第3回目までのまとめと中間試験</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>構造物と荷重</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>反力</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>安定と静定、構造材料の力学的性質</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>構造材料の基礎に関するまとめと期末試験</td> </tr> </table>	第1回	力とモーメント	第2回	力の合成、力の分解	第3回	力の釣り合い	第4回	第1回から第3回目までのまとめと中間試験	第5回	構造物と荷重	第6回	反力	第7回	安定と静定、構造材料の力学的性質	第8回	構造材料の基礎に関するまとめと期末試験
第1回	力とモーメント																
第2回	力の合成、力の分解																
第3回	力の釣り合い																
第4回	第1回から第3回目までのまとめと中間試験																
第5回	構造物と荷重																
第6回	反力																
第7回	安定と静定、構造材料の力学的性質																
第8回	構造材料の基礎に関するまとめと期末試験																
教科書	『建築構造設計概論』和田章・竹内徹監修,実教出版,2016																
参考書	授業中、必要に応じて学習プリントを配布する。																
主な実験・実習機器	関数機能付き電卓を持参すること。																
成績評価の方法	出席・小テスト・宿題等を20%、期末試験を80%の割合で評価する。																
履修上の注意点	「構造材料Ⅱ」と連携するので、この科目も併せて履修するのが望ましい。 試験については、模範解答を後日掲示する。																

科目名	構造・材料Ⅱ
英文科目名	Structure and Material II
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	小野 泰、大垣 賀津雄、田尻 要
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>【授業の概要】建築物、橋梁などの構造物を設計する場合に必要な、部材に生ずる力について学習する。  【到達目標】梁、柱、ラーメンなど骨組構造物に力が作用するときの部材に生ずる力について、各種の計算方法を理解し構造設計の基礎知識を習得するとともに、基本的な構造設計ができるようにする。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>【事前学習】下記の授業内容について教科書を読んでおくこと。  【事後学習】小テストや教科書の問題等の解答を再確認すること。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>部材に生ずる力</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>単純梁（集中荷重）</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>単純梁（荷重とせん断力と曲げモーメントの関係）</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>単純梁（等分布と等変分布荷重）</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>単純梁（モーメント荷重）</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>片持梁</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>静定ラーメンと静定トラス</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>「構造・材料Ⅱ」の要点整理と期末試験</td> </tr> </table>	第1回	部材に生ずる力	第2回	単純梁（集中荷重）	第3回	単純梁（荷重とせん断力と曲げモーメントの関係）	第4回	単純梁（等分布と等変分布荷重）	第5回	単純梁（モーメント荷重）	第6回	片持梁	第7回	静定ラーメンと静定トラス	第8回	「構造・材料Ⅱ」の要点整理と期末試験
第1回	部材に生ずる力																
第2回	単純梁（集中荷重）																
第3回	単純梁（荷重とせん断力と曲げモーメントの関係）																
第4回	単純梁（等分布と等変分布荷重）																
第5回	単純梁（モーメント荷重）																
第6回	片持梁																
第7回	静定ラーメンと静定トラス																
第8回	「構造・材料Ⅱ」の要点整理と期末試験																
教科書	『建築構造設計概論』和田章・竹内徹監修,実教出版,2016																
参考書	必要に応じて学習プリントを配布する。																
主な実験・実習機器	関数機能付き電卓を持参すること。																
成績評価の方法	出席・小テスト・宿題等を20%、期末試験を80%の割合で評価する。																
履修上の注意点	「構造材料Ⅰ」と連携するので、この科目も合わせて履修ことが望ましい。 「試験については、模範解答を後日掲示する。」																

科目名	構造・材料Ⅲ
英文科目名	Structures and Materials III
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	長谷川 正幸、小野 泰、坂口 昇
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>【授業概要】 木、鉄、コンクリートなどに代表される建設材料の許容応力度について学び、「曲げ材（梁）」、「圧縮材（柱）」、「引張材（ブレース）」における許容応力度設計法を習得する。</p> <p>【到達目標】 簡単な外力であれば、許容応力度設計法により断面算定を行い、部材の構造安全性が検定できるようになる。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>【事前】 使用教科書に基づいて授業の予習をすること。</p> <p>【事後】 演習問題を解いて復習すること。その際、基本的なことが分からなければ「構造材料Ⅰ」、「構造材料Ⅱ」を復習すること。</p>
授業の内容	<p>第1回 曲げモーメントを生ずる部材の設計（1）</p> <p>第2回 曲げモーメントを生ずる部材の設計（2）</p> <p>第3回 引張力を生ずる部材の設計（1）</p> <p>第4回 引張力を生ずる部材の設計（2）</p> <p>第5回 圧縮力を生ずる部材の設計（1）</p> <p>第6回 圧縮力を生ずる部材の設計（2）</p> <p>第7回 圧縮力を生ずる部材の設計（3）</p> <p>第8回 第1回～第7回の振り返りと期末試験</p>
教科書	『建築構造設計概論』和田章・竹内徹監修,実教出版,2016
参考書	必要に応じてプリントを配布する。
主な実験・実習機器	関数電卓
成績評価の方法	期末試験（70%）、小テスト・宿題・授業への取組（30%）。
履修上の注意点	<p>「構造・材料Ⅲ」は「建設物理」とセットで受講しなければならない。</p> <p>本講義では小テスト（理解度テスト）を毎回実施し、次回授業にて採点結果を返却する。</p>

科目名	構造・材料Ⅳ
英文科目名	Structures and Materials Ⅳ
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	田尻 要
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>【授業の概要】地盤、土質、水などの性状を実験と演習を通じて水理や土質の基本を学習し、道路、護岸、トンネル、斜面から構造物を下部および基礎構造、地下構造物などの構造形式の選定や地盤改良についての考え方を学ぶ。  【到達目標】基礎工事を必要とする構造物の基礎設計ができるようにする。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>1学年2Q開講の「建設数学」の内容を再確認し予習しておくこと。特に指数・対数の項目について修得しておくこと。時間ごとに小テストを実施し、返却するので復習すること。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>概論</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>基本的な性質</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>土中の水の流れと毛管現象</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>地中の応力</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>圧密</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>強さ</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>土圧</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>「構造・材料Ⅳ」の要点整理と期末試験</td> </tr> </table>	第1回	概論	第2回	基本的な性質	第3回	土中の水の流れと毛管現象	第4回	地中の応力	第5回	圧密	第6回	強さ	第7回	土圧	第8回	「構造・材料Ⅳ」の要点整理と期末試験
第1回	概論																
第2回	基本的な性質																
第3回	土中の水の流れと毛管現象																
第4回	地中の応力																
第5回	圧密																
第6回	強さ																
第7回	土圧																
第8回	「構造・材料Ⅳ」の要点整理と期末試験																
教科書	<p>「基礎シリーズ・土質力学入門」 実教出版</p>																
参考書	<p>必要に応じて学習プリントを配布する。</p>																
主な実験・実習機器	<p>土質実験で用いられる試験器具</p>																
成績評価の方法	<p>期末テスト80%、レポート20%</p>																
履修上の注意点	<p>基礎の設計はすべての構造物の基本なので、ほかの設計系の科目と関連付けて学習するとよい。授業内の小テストやレポート等および定期試験はチェックや採点したのちに返却するので、受け取ったら復習するとともに今後の学習のために保管しておくこと。</p>																

科目名	英語 I
英文科目名	English I
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	菊池 せつ子、大野 純子、中村 佳代子
単位数	2

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要：本学の基本理念にある「国際性の重視」に基づき、英語の四技能「読む・書く・聞く・話す」をバランスよく習得し、英語でのコミュニケーション力の総合的な運用能力を養成する。建設関係の語彙や基本的な英語表現の学習、また必要に応じて基礎的な文法事項を復習しながら、理系の分野の学生に適したトピックを題材にした、平易な英文（200～250語程度）の読解力のアップに努める。</p> <p>2. 到達目標：建設関係の語彙や基本的な英語表現を習得し、職場・社会での必要場面において英語の四技能を駆使し、簡単な日常会話や基礎的な中・短文の読解ができる。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>予習：各章に関して、必要に応じて辞書を使い語彙などの意味を調べ、日本語訳などを試みる。また練習問題を解いたり、文章の音読練習をする。復習：各自の理解度に応じて、授業の内容をよく復習し、次回の授業に備える。</p>
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション/習熟度別クラス編成のための、クラス分けテストの実施（採点・集計なども含む）。</p> <p>第2回 Section1：What's So Smart About a Smartphone? Chapter 1 A Social Network（ソーシャル・ネット・ワーキング） Topic: Social Networking Services ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Grammar, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions</p> <p>第3回 Chapter 2 The End of TV（録画時代の終わり） Topic: Streaming Television and Movies ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Grammar, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions</p> <p>第4回 Chapter 3 A Sports for Smartphones（スマートフォンで宝探し） Topic: Geocaching ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Grammar, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions</p> <p>第5回 Chapter 4 Radio for Everyone（あなたがするラジオトークショー） Topic: Podcasts ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Grammar, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions</p> <p>第6回 Chapter 5 Smaller or Bigger?（変化するスマートフォンのサイズ） Topic: Different Types of Handheld Device ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Grammar, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions</p> <p>第7回 Section 2: The Rise of the Machines Chapter 6 Light Brings Hope（明かりが希望をもたらす） Topic: Solar Lanterns in Africa</p> <p>第8回 Chapter 1~6 のまとめ、期末テスト</p>
教科書	<p>「It's a Wired World（インターネットが生み出す未来社会）」、Dainiel O'Keeffe, Tetsuo Shibagaki 著、SEIBIDO、2017年。</p>
参考書	<p>「建設英語用語集」等、必要に応じて授業中に指示する。</p>
主な実験・実習機器	<p>英和辞書を用意すること(電子辞書でもよい)。推奨参考辞書「ジーニアス英和辞典、リーダーズ英和辞典、ロングマン現代英英辞典」等</p>
成績評価の方法	<p>期末試験 60%、提出物・小テスト・平常点(授業への積極的参加など)を40%として総合的に評価する。</p>
履修上の注意点	<p>初回は習熟度別クラス分けテストを実施するので必ず受験すること。指定の教科書を必ず購入し授業に持参すること。また、大幅な遅刻は欠席とすることがある。特別な事情で欠席する場合は所定の申請手続きを行うこと。初回の習熟度レベル分けテストで3クラスに編成されるので(掲示予定)、必ず指示されたクラスで受講すること。その他、必ず予習をして授業に臨むこと。なお、各回の小テストについては、次週の授業冒頭で解説を行い、留意点を確認する。</p>

科目名	英語Ⅱ
英文科目名	English II
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	菊池 せつ子、大野 純子、中村 佳代子
単位数	2

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要：本学の基本理念にある「国際性の重視」に基づき、英語の四技能「読む・書く・聞く・話す」をバランスよく習得し、英語でのコミュニケーション力の総合的な運用能力を養成する。建設関係の語彙や表現を学習、または必要に応じて基礎的な文法事項の復習をしながら、理系の分野の学生に適したトピックを題材にした、平易な英文（200～250語程度）の読解力のアップに努める。</p> <p>2. 到達目標：建設関係の語彙や基本的な英語表現を習得し、職場・社会での必要な場面において、英語コミュニケーションの四技能を駆使し、簡単な日常会話や基礎的な中・短文の読み書きができる。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>予習：各チャプターに関して、必要に応じて辞書を使い語彙などの意味を調べ、日本語訳などを試みる。また練習問題を解いたり、文章の音読練習をする。復習：各自の理解度に応じて、授業の内容をよく復習し、次回の授業に備える。</p>
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション／習熟度別クラス編成のための、クラス分けテストの実施（採点・集計なども含む）。</p> <p>第2回 Section 2：The Rise of the Machines Chapter 7 No More Lost Bags（飛行機に預けた荷物が紛失する） Topic: RFID Chips ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions</p> <p>第3回 Chapter 8 Artificial Brains（人工知能） Topic: Artificial Intelligence ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions</p> <p>第4回 Chapter 9 A Better Ways to Tell the Time（時間の狂わない時計） Topic: Laser Clocks ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions</p> <p>第5回 Chapter 10 What to Do with All That Data?（ロボットがするあなたの健康診断） Topic：Automated Systems ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions</p> <p>第6回 Section 3：Building the Future Today Chapter 11 The Man Who Invented the World Wide Web（WWWを作った人） Topic:Tim Berners-Lee ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions</p> <p>第7回 Chapter 12 The Biggest Store in the World（世界最大の店舗） Topic：Jeff Bezos and Amazon ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions</p> <p>第8回 Chapter 13 Powering the Home of the Future（安全な電力） Topic：Elon Musuk and Powerwall／期末テスト</p>
教科書	<p>「It's a Wired World（インターネットが生み出す未来社会）」 Dainiel O'Keeffe, Tetsuo Shibagaki 著、SEIBIDO、2017年。</p>
参考書	<p>「建設英語用語集」等、必要に応じて授業中に指示する。</p>
主な実験・実習機器	<p>英和辞書を用意すること(電子辞書でもよい)。推奨参考辞書「ジーニアス英和辞典、リーダーズ英和辞典、ロングマン現代英英辞典」等</p>
成績評価の方法	<p>期末試験60%、提出物・小テスト・平常点（授業への積極的参加など）を40%として総合的に評価する。</p>
履修上の注意点	<p>初回はクラス分けテストを実施するので必ず受験のこと。英語Iを履修していることが望ましい。指定の教科書を必ず購入し授業に持参のこと。また、大幅な遅刻は欠席とすることがある。特別な事情で欠席する場合は所定の申請手続きを行うこと。クラス分けテストの結果で編成されたクラス（掲示予定）で、必ず受講すること。その他、必ず予習をして授業に臨むこと。なお、各回の小テストなどについては、次週の授業冒頭で解説を行い、留意点を確認する。</p>

科目名	英語Ⅲ
英文科目名	English III
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	菊池 せつ子、大野 純子、中村 佳代子
単位数	2

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要：本学の基本理念にある「国際性の重視」に基づき、英語の四技能「読む・書く・聞く・話す」をバランスよく習得し、英語でのコミュニケーション力の総合的な運用能力を養成する。建設関係の語彙や基本的な英語表現の学習、または必要に応じて基礎的な文法事項を復習しながら、理系の学生に適したトピックを題材にした平易な英文（200～250語程度）の読解力のアップに努める。</p> <p>2. 到達目標：建設関係の語彙・基本的な英語表現を習得し、職場・社会の必要場面において英語の四技能を駆使し、簡単な日常会話や基礎的な中・短文の読み書きができる。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>予習：各チャプターに関して、必要に応じて辞書を使い語彙などの意味を調べ、日本語訳などを試みる。また練習問題を解いたり、文章の音読練習をする。復習：各自の理解度に応じて、授業の内容をよく復習し、次回の授業に備える。</p>
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション／習熟度別クラス編成のための、クラス分けテストの実施（採点・集計を含む）。</p> <p>第2回 Section 3: Building the Future Today Chapter 14 Steve Jobs and Friends（スティーブ・ジョブズの苦勞） Topic: Steve Jobs and Apple ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Grammar, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions.</p> <p>第3回 Chapter 15 Cars of the 21st Century（未来の自動車） Topic: Elon Musk and Tesla Motors ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Grammar, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions</p> <p>第4回 Section 4: Where Do You Go in Cyberspace? Chapter 16 It's a Wiki World（なんて奇妙な世界） Topic: Wikipedia ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Grammar, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions</p> <p>第5回 Chapter 17 Teach Yourself Anything（インターネットで大学に行く） Topic: Online Learning ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Grammar, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions</p> <p>第6回 Chapter 18 Who Do You Follow?（ツイッター） Topic: Twitter ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Grammar, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions</p> <p>第7回 Chapter 19 Saving Time Online（オンライン上での省略語） Topic: Online Language ☆Vocabulary, Reading, True or False, Reading Comprehension, Grammar, Composition, Word Sense, Dialogue, Dialogue Questions</p> <p>第8回 Chapter 20 Play and Learn（遊びながら勉強っていいですね） Topic: Online Games／期末テスト</p>
教科書	<p>「It's a Wired World〈インターネットが生み出す未来社会〉」 Daniel O'Keeffe, Tetsuo Shibagaki 著、SEIBIDO、2017年。</p>
参考書	<p>「建設英語用語集」等、必要に応じて授業中に指示する。</p>
主な実験・実習機器	<p>英和辞書を用意すること(電子辞書でもよい)。推奨参考辞書「ジーニアス英和辞典、リーダーズ英和辞典、ロングマン現代英英辞典」等</p>
成績評価の方法	<p>期末試験60%、提出物・平常点（授業への積極的参加など）40%として総合的に評価する。</p>
履修上の注意点	<p>初回は習熟度別クラス分けテストを実施するので、必ず受験のこと。英語I・IIを履修していることが望ましい。指定の教科書を必ず購入し授業に持参のこと。また、大幅な遅刻は欠席とすることがある。特別な事情で欠席する場合は所定の申請手続きを行うこと。初回の習熟度別クラス分けテストで、3クラスに編成されるので（掲示予定）、必ず指定されたクラスで受講すること。その他、必ず予習をして授業に臨むこと。なお、各回の小テストなどについては、次週の授業冒頭で解説を行い、留意点を確認する。</p>

科目名	安全工学 I
英文科目名	Safety Engineering I
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	須藤 英明
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要: 建設工事における安全の確保について、現状の様々な事例を学び、人間工学や心理学などの側面も取り入れながら、現場作業で監督者や労働者が陥り易いエラー、そしてこのエラーを防ぎ安全に作業をしやすい環境の形成のあり方等について学ぶ。併せて労働安全衛生関連の法令等についても、基礎知識を修得する。</p> <p>2. 到達目標: 災害事例学習等から得られる危険予知能力を養うことで、現場工事における安全管理のポイントが身につくようになる。代表的な保護具・管理帳票・さらに安全環境向上への工夫等への知識も高め、さらなる改善にも結び付けられるようになる。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>ものづくり大学が遵守すべき事項をまとめ、各自に配布した『安全手帳(建設編)』を読んでおくこと、特に第3章の実験・実習における心得を熟読しておくこと。また、復習として、実習作業前の危険予知活動と実際の場面を対比させ、次段階において、さらに具体的な安全環境の構築に向け取り組むこと。</p>
授業の内容	<p>第1回 「建設工事の安全」～その重要性～ 建設業の労働災害の現状・傾向・問題点の紹介、安全作業の基本的な心構え等の動機付けを図る。</p> <p>第2回 「災害事例に学ぶ安全」その1～原因分析～ 現場で特に注意すべき災害の原因(不安全な環境・状態・行動・管理等)を実事例から認識し、その根源を探る。</p> <p>第3回 「災害事例に学ぶ安全」その2～再発防止に向けて～ 具体的事例に対し、何が問題であったか、なぜ防げなかったのか、再発防止はどのようにすればよいか等を、代表的な分析ツールを用いて学ぶ。</p> <p>第4回 「危険予知活動」その1～作業にとりかかる前に～ 現場作業に先立ち行われる入場教育・リスクアセスメント・作業手順作成と周知会の進め方等について修得する。</p> <p>第5回 「危険予知活動」その2～日々の安全管理活動～ 現場で、日々、行われているTBM・KY活動・作業間連絡調整・ヒヤリハット事例発掘等の内容と進め方の勘所、安全施工サイクル等を学ぶ。</p> <p>第6回 「安全関係の法律知識」～守るべき主な法令類～ 建設工事に関係の深い労働安全衛生法や安全衛生規則等の要点を知る。守るべきこと、行ってはならないこと、安全関係の統計的指標等を身に着ける。</p> <p>第7回 「現場での安全衛生管理の取組み」～工夫事例紹介～ 安全衛生環境の改善や事故・災害防止のため、実際の現場で行われている具体的事例について修得し、将来、現場等でも展開できるよう指導する。</p> <p>第8回 「安全工学Iのまとめとレポート提出」～建設工事の安全確保に向け、何を学んだか～ これまでの講義や演習を通じ、建設工事の安全継続に向け、何を学んできたか、各自の抱負等を交え、レポートにまとめる。</p>
教科書	<p>適宜プリントを配布する。他に安全教育用ビデオを活用する。</p>
参考書	<p>授業中に適宜提示する。引用資料等を紹介。</p>
主な実験・実習機器	<p>危険予知活動表等の安全管理帳票類は、実現場で使用している書式を紹介・使用する。</p>
成績評価の方法	<p>出席状況・授業態度(20%)およびレポート課題(80%)により評価する。</p>
履修上の注意点	<p>インターンシップに際して安全は最重要なものになるので必ず受講すること。単位を取得できなかった場合はインターンシップに出られないことがある。また、授業態度が他の受講者に著しく迷惑をかける場合は教室より退去を命ずることもあり、この場合は欠席扱いとする。 現場の安全管理は、まかり間違えば「人命にも係わる」きわめて重要な項目であることをまず認識し、真摯な態度で受講するよう強く望む。 演習レポートの内容等を踏まえ、安全への意識や着眼点を見極めることとする。 レポート等については、採点し添削したものを次回の授業で返却する。</p>

科目名	安全工学Ⅱ
英文科目名	Safety Engineering II
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	須藤 英明
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要: 建設現場における労働災害防止活動は、携わる者全員の地味な努力により、その内容向上が日々重ねられている実状を理解する。さらに重大災害防止への取組み、万が一の災害発生時の対応、取得しておく役立つ資格等を紹介する。各場面において安全工学Ⅰと同様に演習を取り入れ、要点理解を深める。</p> <p>2. 到達目標: 重大災害防止への取組みの大切さ、取組み方法、万一の災害発生時の対処方法等が身に着く。また、将来、現場仕事に従事した際に取得しておく有利な資格類を知り、チャレンジ精神の醸成意欲が育まれるようになる。加えて、一人ひとりが社会生活を進めていくうえで重要不可欠な災害防止への知識も高められる。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>安全工学Ⅰでの学習及び実験・実習での安全体験と成果を確認し、さらに理解を深めるために視野を広げ、意識を覚醒しておくこと。復習として、講義で身に着けた内容を、将来の自分の立場に置き換え、さまざまな直面事象に際しても、ひるまず立ち向かい対処する姿勢を確立するよう心掛けること。</p>
授業の内容	<p>第1回 「建設工事の安全を支える資機材」～保護具や安全設備～ 現場作業従事者の安全を支えるさまざまな安全資機材についての知識を再確認する。不具合事例等も紹介し類似事象の防止意識を高める。</p> <p>第2回 「建設重大災害の防止」その1～この点が大切～ いわゆる建設3大災害といわれる「墜落転落・飛来落下・はさまれ巻き込まれ」を防ぐため、どのような手段が大切かを身に着ける。災害の型別分類・起因物別分類等の手法も紹介。</p> <p>第3回 「建設重大災害の防止」その2～この点も大切～ ( 同上 ) 建設3大災害といわれる「墜落転落・飛来落下・はさまれ巻き込まれ」を防ぐため、どのような手段が大切かを身に着ける。作業・安全指示書の作成演習等。</p> <p>第4回 「安全管理に役立つ資格等」～事故・災害防止に向けての現場関連の主な資格類～ 将来現場で役立つ資格・法令上に必要な資格類の主要なものを紹介する。</p> <p>第5回 「災害発生時の措置と対応」その1～日頃からの備え等～ 万が一の災害に備え、日頃から取り組んでおくべき事柄や訓練等を理解する。</p> <p>第6回 「災害発生時の措置と対応」その2～もしも起きてしまったら等～ 災害に直面してしまったらどうするか、対応措置や再発防止への活動を、なぜなぜ分析やケースメソッド的な手法も交え、あらためて修得する。</p> <p>第7回 「地域の安全を考える」～防災・減災・耐災～ 現場工事のみならず、我々の生活全般に視野を広げての「災害防止の在り方」を学ぶ。</p> <p>第8回 「安全工学Ⅱのまとめとレポート提出」～将来の職場での安全継続に向け、何を行っていくべきか～。 講義で修得した内容を踏まえ、将来、自分が従事したい仕事において、事故や災害の防止のために何が大切かをあらためて考える。</p>
教科書	<p>適宜プリント等を配布する。他に安全教育用ビデオを活用する。</p>
参考書	<p>授業中に適宜提示する。引用資料紹介等。</p>
主な実験・実習機器	<p>作業・安全指示書等の安全管理帳票類は、実現場で使用している書式を紹介・使用する。</p>
成績評価の方法	<p>出席状況・授業態度(20%)およびレポート課題(80%)により評価する。</p>
履修上の注意点	<p>インターンシップに際して安全は最重要なものになるので必ず受講すること。単位を取得できなかった場合はインターンシップに出られないことがある。また、授業態度が他の受講者に著しく迷惑をかける場合は教室より退去を命ずることもあり、この場合は欠席扱いとする。 安全工学Ⅰと同様、現場の安全管理は、まかり間違えば「人命にも係わる」きわめて重要な項目であることをまず認識し、真摯な態度で受講するよう強く望む。 演習レポートの内容等を踏まえ、安全への意識や着眼点を見極めることとする。 レポート等については、採点し添削したものを次回の授業で返却する。</p>

科目名	構工法 I
英文科目名	Building Construction and Methods I
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	三原 齊
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要: 工法、構法、構工法、構造の違いを理解する。また、建築物の基本的な骨組の種類・分類から、鉄筋コンクリート造、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、および木造について、使用材料の製法、性質およびそれらを組立・構成する構工法の基礎を学ぶ。</p> <p>2. 到達目標: (1) 空間を構成する骨組の種類と特徴を理解する。 (2) 鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、鉄骨鉄筋コンクリート造、木造について、それぞれの構工法の特徴を理解する。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>施工がわかるイラスト建築生産入門(日建連)をしっかりと読んでおくこと。また、毎授業の後に復習し、わからなかったことは次の授業で質問できるようにしておくこと。</p>
授業の内容	<p>第1回 構工法の概要について学ぶ。レポート提出。</p> <p>第2回 鉄筋コンクリート造(1) 鉄筋コンクリート構造の原理と構成、ラーメン構造と壁式構造を学ぶ。レポート提出。</p> <p>第3回 鉄筋コンクリート造(2) コンクリート、鉄筋の製造方法、およびそれらの基本的性質について学ぶ。レポート提出。</p> <p>第4回 鉄骨造(1) 鉄骨構造の代表的な構造形式について学ぶ。レポート提出。</p> <p>第5回 鉄骨造(2) 鋼材の製造方法と鋼材の性質。鉄骨構造を構成する部材とその接合工法について学ぶ。レポート提出。</p> <p>第6回 鉄骨鉄筋コンクリート造 SRC造、S造、RC造のそれぞれの構造の違いを知る。SRC造の特徴を知り、その施工の方法と内容を学ぶ。レポート提出。</p> <p>第7回 木造 木材の基本的性質。在来軸組構造、枠組壁工法、部材の接合工法。小屋組みの種類と構成について学ぶ。レポート提出。</p> <p>第8回 構工法 I の要点整理と試験</p>
教科書	<p>プリントを授業の時に配付する。</p>
参考書	<p>施工がわかるイラスト建築生産入門(日建連編)</p>
主な実験・実習機器	<p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>出席状況(40%)、レポートと試験(60%)により、総合評価する。</p>
履修上の注意点	<p>構工法 II と合わせて履修することが望ましい。 レポートについては、採点し添削したものを次回の授業で返却する。</p>

科目名	構工法Ⅱ
英文科目名	Building Construction and Methods II
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	坂口 昇
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要: 建築物を構成する材料、構成要素の特性と役割を理解し、構造物への活用のかたちを学ぶ。さらに、要求性能を実現するためにさまざまな構工法が開発、活用されている現状を学び、自ら新しい構工法に取り組む姿勢を養う。簡単な構造模型の制作を通じて、構工法を考える上で実証の有用性を学び、自ら新しい技術を生み出し、その有効性を証明する力を付ける。</p> <p>2. 到達目標: (1) 建築構工法の現状と課題を理解し、今後の展望を描くことができる。 (2) 鉄、コンクリートの特性を理解し、特性を生かした構工法について創造的考察ができる。 (3) 新技術を有効性を実証し、是非を判断することができる。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>予習：毎授業の最後に提示する「次回講義に関する課題」について文献等で調べておくこと。 復習：授業の後、必ず復習し、分からないことは次回授業で質問すること。また、毎授業で「小テスト」を行うので、前回授業までの内容を見直して授業に臨むこと。</p>
授業の内容	<p>第1回 建築構工法の考え方、要点。折板構造。</p> <p>第2回 建築骨組のかたちと強さ。床構造。</p> <p>第3回 新しい構工法の現状と課題(1) 鉄骨鉄筋コンクリート構造・柱RC梁S構造</p> <p>第4回 新しい構工法の現状と課題(2) コンクリート充填鋼管構造・鋼管コンクリート複合構造</p> <p>第5回 新しい構工法の現状と課題(3) 免震構工法・制振構工法</p> <p>第6回 模型製作による構工法の理解(1) 設計・部材制作</p> <p>第7回 模型製作による構工法の理解(1) 組立・実験・考察</p> <p>第8回 構工法Ⅱの要点整理、課題レポート提出</p>
教科書	特になし。プリントを授業の時に配布する。
参考書	特になし。授業時にプリントを配布する。
主な実験・実習機器	特になし
成績評価の方法	授業への参加度(40%)、授業内小テスト(10%)、課題制作(20%)、課題レポート(30%)。
履修上の注意点	毎回小テストを行い、次回に返却、講評を行う。課題制作は完成時に講評と採点を行う。小テストおよび制作は成績評価に繋がります。欠かさず受験、提出すること。

科目名	社会基盤
英文科目名	Social Infrastructure
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	澤本 武博
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>概要：橋梁、道路等の土木・都市基盤について、各種構造、材料の特性を踏まえながら、安全性、耐久性、経済性に関する性能的な課題にいかに関与を与え、構工法の選定を行うかを、歴史的な変遷を含めた具体的な事例に学ぶ。そして、社会基盤に関する基礎知識を習得する。 到達目標：インフラの種類、施工方法が理解できるようになる。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>社会基盤に関するオリジナルテキストを予習すること。また、毎授業の後に復習し、次の授業で質問できるようにしておくこと。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>社会基盤の概論（インフラの種類、歴史的な変遷などを学ぶ）</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>土工事（土を動かす際に必要な事項を学ぶ）</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>基礎工事（直接基礎、杭基礎、ケーソン基礎について学ぶ）</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>コンクリート工事（材料、施工、養生について学ぶ）</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>トンネル工事（山岳工法、シールド工法、開削工法、沈理工法について学ぶ）</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>橋梁工事（橋梁の構成、種類、施工方法について学ぶ）</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>ダム工事（ダムの種類、施工方法について学ぶ）</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>社会基盤の要点整理とテスト</td> </tr> </table>	第1回	社会基盤の概論（インフラの種類、歴史的な変遷などを学ぶ）	第2回	土工事（土を動かす際に必要な事項を学ぶ）	第3回	基礎工事（直接基礎、杭基礎、ケーソン基礎について学ぶ）	第4回	コンクリート工事（材料、施工、養生について学ぶ）	第5回	トンネル工事（山岳工法、シールド工法、開削工法、沈理工法について学ぶ）	第6回	橋梁工事（橋梁の構成、種類、施工方法について学ぶ）	第7回	ダム工事（ダムの種類、施工方法について学ぶ）	第8回	社会基盤の要点整理とテスト
第1回	社会基盤の概論（インフラの種類、歴史的な変遷などを学ぶ）																
第2回	土工事（土を動かす際に必要な事項を学ぶ）																
第3回	基礎工事（直接基礎、杭基礎、ケーソン基礎について学ぶ）																
第4回	コンクリート工事（材料、施工、養生について学ぶ）																
第5回	トンネル工事（山岳工法、シールド工法、開削工法、沈理工法について学ぶ）																
第6回	橋梁工事（橋梁の構成、種類、施工方法について学ぶ）																
第7回	ダム工事（ダムの種類、施工方法について学ぶ）																
第8回	社会基盤の要点整理とテスト																
教科書	<p>オリジナルテキストを配布する。</p>																
参考書	<p>適宜指示をする。</p>																
主な実験・実習機器	<p>関数電卓を持参すること。</p>																
成績評価の方法	<p>出席状況、テストおよびレポートの結果による。期末テスト60%、レポート20%、授業態度20%。</p>																
履修上の注意点	<p>テストについては、模範解答および質疑応答日を告知する。</p>																

科目名	コンピュータ基礎および実習 I
英文科目名	Computer Basics and Practices I
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	土居 浩
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>【授業概要】 InformationからIntelligenceへの情報操作基礎を目指し、学生生活に限らず、今後の社会生活に必須となるコンピュータ利用に対応する基本スキルを習得する。今期は主にネット上での情報蒐集と発信について習得する。  【到達目標】 要求された水準に沿った課題を制作するために自己点検できるようになる。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>第1回のための予習としては、指定教科書をプレビューしておくこと。以後の復習および予習については、第1回の授業で具体的に、指定教科書を利用した自習時間の活用方法をレクチャーする。その成果を組み込んで成績評価対象とするので、注意すること。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>授業ガイダンス（今期予習・復習計画の作成） Windowsの基礎 日本語入力の基礎</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>E-mail（非同期通信）の基礎</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>スマホとの連携</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>ファイルのやりとり</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>ウェブ上の情報の扱い（蒐集）</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>ウェブ上の情報の扱い（発信）</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>正しいコピペの方法</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>情報倫理テスト（前半） テストふりかえり（後半）</td> </tr> </table>	第1回	授業ガイダンス（今期予習・復習計画の作成） Windowsの基礎 日本語入力の基礎	第2回	E-mail（非同期通信）の基礎	第3回	スマホとの連携	第4回	ファイルのやりとり	第5回	ウェブ上の情報の扱い（蒐集）	第6回	ウェブ上の情報の扱い（発信）	第7回	正しいコピペの方法	第8回	情報倫理テスト（前半） テストふりかえり（後半）
第1回	授業ガイダンス（今期予習・復習計画の作成） Windowsの基礎 日本語入力の基礎																
第2回	E-mail（非同期通信）の基礎																
第3回	スマホとの連携																
第4回	ファイルのやりとり																
第5回	ウェブ上の情報の扱い（蒐集）																
第6回	ウェブ上の情報の扱い（発信）																
第7回	正しいコピペの方法																
第8回	情報倫理テスト（前半） テストふりかえり（後半）																
教科書	<p>杉本くみ子・大澤栄子（2016）『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』実教出版</p>																
参考書	<p>『ものづくり大学情報ネットワーク利用の手引き』ものづくり大学 『情報倫理ハンドブック(NESS対応)』noa出版 ほかは授業中に提示する。</p>																
主な実験・実習機器	<p>個人pcを持参する必要はなく、むしろコンピュータ演習室の学生用端末に慣れることが先決である。利用可能な時間帯を活用すること。</p>																
成績評価の方法	<p>各回で提出を課す作業報告および課題等の累積で評価する。課題等の提出手段および提出受付期間は、毎回異なるので留意すること。 ただし最終回の情報倫理テストは必須である。情報倫理テストを受験しなければ、評価対象としない。</p>																
履修上の注意点	<p>各回の授業内容は目安であり、変更がありうる。 コンピュータ演習室の席数に制限があるため、開講対象年次以外の学年あるいは他学科の履修希望者全員が履修できるとは限らないので、注意すること。 作業報告および課題等は、提出された次回の冒頭でフィードバックする。</p>																

科目名	コンピュータ基礎および実習Ⅱ
英文科目名	Computer Basics and Practices II
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	松岡 大介、非常勤講師
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>1.授業概要：文書作成ソフトとしてWordを使用し、タイピングの練習及びレポート課題等の作成に必要な知識を学ぶ。また表計算ソフトとしてExcelを使用し、身の回りのデータを利用、整理することによってデータベースとしての使い方等を学ぶ。</p> <p>2.到達目標：レポート作成時にWordとExcelを使いこなせるようにする。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>【事前】指定した教科書を事前に読んでおくこと。</p> <p>【事後】授業内でやった課題を復習し、わからなかったことは質問できるようにしておくこと。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>WordとExcelに関する概説と演習</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>Word (文章の作成)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>Word (表の作成)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>Excel (表計算)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>Excel (グラフ作成)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>Excel (データベース)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>Excel (関数)</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>WordとExcelの最終課題</td> </tr> </table>	第1回	WordとExcelに関する概説と演習	第2回	Word (文章の作成)	第3回	Word (表の作成)	第4回	Excel (表計算)	第5回	Excel (グラフ作成)	第6回	Excel (データベース)	第7回	Excel (関数)	第8回	WordとExcelの最終課題
第1回	WordとExcelに関する概説と演習																
第2回	Word (文章の作成)																
第3回	Word (表の作成)																
第4回	Excel (表計算)																
第5回	Excel (グラフ作成)																
第6回	Excel (データベース)																
第7回	Excel (関数)																
第8回	WordとExcelの最終課題																
教科書	「30 時間アカデミック情報リテラシー Office2016」, 杉本くみ子・大澤栄子 著, 実教出版株式会社発行																
参考書	適宜プリントを配布する。																
主な実験・実習機器	外部保存メディア(USBメモリ)																
成績評価の方法	各回課題(70%)、出席状況(20%)、受講態度(10%)を総合して評価する。																
履修上の注意点	この授業は基本的に「コンピュータ基礎および実習Ⅰ」から連続なので、履修に際しては「コンピュータ基礎および実習Ⅰ」のルールを了解したものとして授業を進める。各回の課題については、次回の授業で解答・解説する。																

科目名	コンピュータ基礎および実習Ⅲ
英文科目名	Computer Basics and Practices III
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	戸田 都生男、佐々木 晶孝、岩田 和彦
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要：4年生の卒業研究発表で使用するPowerPointの基本操作と、プレゼンテーションの基礎を学ぶ。また、PowerPointにレイアウトする図版素材をつくる練習として、写真加工とイラスト描画で多用されるアプリケーションPhotoshopとIllustratorの基本操作を学ぶ。</p> <p>2. 到達目標：自らの経験を第三者に伝えることを目的としたプレゼンテーションを行えるようになる。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>予習：事前学習として前学期までに学んだ各種PCソフトの操作を事前に復習しておくこと。  復習：授業時にはノートを作成し、新たに学んだPCソフトの操作を繰り返し練習すること。</p>
授業の内容	<p>第1回 ガイダンス：プレゼンテーションに使用するアプリケーションの概説と演習</p> <p>第2回 Illustrator演習：基礎操作演習 ログマーク入りの名刺データを作成する</p> <p>第3回 Photoshop演習：基礎操作演習 切り抜き画像の作成・写真データのレンズ補正など</p> <p>第4回 プレゼンの構成を考える：地元の建物ならびに大学の授業を紹介する内容を盛り込んだプレゼン構成を作成</p> <p>第5回 地元の建物紹介：PowerPointを用いて地元の建物を紹介するスライドプレゼンを作成</p> <p>第6回 授業紹介：PowerPointを用いてものづくり大学の授業を紹介するスライドプレゼンを作成</p> <p>第7回 スライドプレゼンデータの仕上げ：全体的なデザインを統一させるなどの調整を行い、プレゼン原稿を作成する</p> <p>第8回 スライドプレゼンに関するまとめと講評会</p>
教科書	『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』、杉本くみ子・大澤栄子 著、実教出版、2016
参考書	『情報ネットワーク利用の手引き』、ものづくり大学情報係
主な実験・実習機器	コンピュータ演習室端末（PowerPointを主に使用）、外部保存メディア（USBメモリ等を各自用意）
成績評価の方法	毎回の受講態度（20%）、最終成果物とプレゼンテーションの出来栄（80%）により評価する。各種課題の書式など詳細については講義中に指示する。
履修上の注意点	コンピュータ基礎および実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは一体で運営されるので、合わせて履修することが望ましい。最終成果物とプレゼンテーションの出来栄等について最終授業（講評会）でコメントする。

科目名	建設物理
英文科目名	Physics for Construction and Exercises
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	長谷川 正幸、小野 泰、坂口 昇
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>【授業概要】 弾性体の応力とひずみ、フックの法則、断面1次モーメントや断面2次モーメントに代表される断面性能など、力学の基礎を建設物理として学ぶ。</p> <p>【到達目標】 部材の断面性能、弾性体の応力～ひずみ関係など、力学の基礎知識を習得することによって、力学が身近な問題として捉えられるようになる。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>【事前】 使用教科書に基づいて授業の予習をすること。</p> <p>【事後】 演習問題を解いて復習すること。その際、基本的なことが分からなければ「構造材料Ⅰ」の復習から始めること。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>応力度</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>ひずみ度</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>弾性体の性質</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>材料の強さと応力度～ひずみ度曲線</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>許容応力度と安全率</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>断面1次モーメントと図心</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>断面2次モーメントと断面係数</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>第1回～第7回の振り返りと期末試験</td> </tr> </table>	第1回	応力度	第2回	ひずみ度	第3回	弾性体の性質	第4回	材料の強さと応力度～ひずみ度曲線	第5回	許容応力度と安全率	第6回	断面1次モーメントと図心	第7回	断面2次モーメントと断面係数	第8回	第1回～第7回の振り返りと期末試験
第1回	応力度																
第2回	ひずみ度																
第3回	弾性体の性質																
第4回	材料の強さと応力度～ひずみ度曲線																
第5回	許容応力度と安全率																
第6回	断面1次モーメントと図心																
第7回	断面2次モーメントと断面係数																
第8回	第1回～第7回の振り返りと期末試験																
教科書	『建築構造設計概論』和田章・竹内徹監修,実教出版,2016																
参考書	必要に応じてプリントを配布する。																
主な実験・実習機器	関数電卓																
成績評価の方法	期末試験(70%)、小テスト・宿題・授業への取組(30%)。																
履修上の注意点	<p>「建設物理」は「構造・材料Ⅲ」とセットで受講しなければならない。</p> <p>本講義では小テスト(理解度テスト)を毎回実施し、次回授業にて採点結果を返却する。</p>																

科目名	心理学
英文科目名	Psychology
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	川上 正倫
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>授業の概要： 建築空間に関する心理学的な知見を学ぶ事で、建設計画、生産計画等の過程における建造物や環境が人間の心理面に及ぼす影響、人間相互間の折衝その他の関係における心理的要因について事例を通して理解を深める。</p> <p>到達目標： 空間に対する様々な感じ方の傾向や個人差を理解して、設計を行う際に多様なものの見方ができるようになる。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>あらかじめものづくり大学周辺や行田の街を散歩して、空間としてよいと感じた事、悪いと感じた事、改善点などをレポートにまとめておくこと。第5回目の授業で提出のこと。また、授業の前には該当の教科書頁をよく読んで授業に備えるようにすること。</p>
授業の内容	<p>第1回 環境と心理の関わり、「かたちづくり」 私たち人間は、まわりからどのように影響を受けているのか</p> <p>第2回 視覚と心理、「観る」 視覚による環境の把握、視覚に及ぼす心理的影響</p> <p>第3回 聴覚、嗅覚と心理 「感じる」 視覚以外による環境の把握、心理的影響</p> <p>第4回 環境と行動1 「災害をふせぐ」 様々な感覚に基づいた空間の理解をどう記述するか</p> <p>第5回 環境と行動2 「犯罪から守る」 環境からの影響を受けて、実際に人はどんな行動をとるのか</p> <p>第6回 環境の評価 「ともに暮らす」「間をとる」 人はどのように環境を感じ、どのように思っているのか</p> <p>第7回 要望の把握 「めぐる」「わかる」 様々な感覚に基づいた空間の理解をどう記述するか</p> <p>第8回 満足の実現 「好きになる」 人々の望むことをどのようにデザインに活かしていくか</p>
教科書	<p>大野隆造・小林美紀『安全で心地よい環境をつくる 人間都市学』井上書院</p>
参考書	<p>日本建築学会編『建築空間のヒューマニジング 環境心理による人間空間の創造』彰国社</p>
主な実験・実習機器	<p>途中、カメラまたはデジカメが必要となる</p>
成績評価の方法	<p>授業毎の課題の取組み態度(60%) + 宿題のレポートの出来(30%) + テスト的な理解度チェック課題(10%)にて評価する</p>
履修上の注意点	<p>講義の内容上、「正解」や「不正解」を判定するものではなく、アンケート的なニュアンスのため、各課題やレポートともに特に返却はしませんが、講義内でその集計結果を用いた解説を行います。また、チェック課題については、回収後に模範解答を解説します。</p>

科目名	建築職能論
英文科目名	The technique of architectural workman
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	高橋 宏樹
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>【授業の概要】産業構造の変化や国際化など、現代の激しい時代変化の中で建築職人が果たすべき役割はますます重大になってきている。建築職人は、社会資本である建築を作る上でその構造安全性や施工品質を確保する十分な技能と技術を持たねばならない。元々日本の職人が持つ高い倫理観・責任感をベースとしながら駆体・内装など様々な職人の職能を学ぶ。</p> <p>【到達目標】今後の新たな職能や職域の課題を理解できるようにする。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>参考書などで建築職人の職域について確認しておくこと。 毎授業の後に復習し、わからなかったことは次の授業で質問すること。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>職能概論・建築の工具</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>建具工の職能</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>大工の職能</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>鉄筋工の職能</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>鳶工の職能</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>左官工の職能</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>溶接工の職能</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>家具の職能</td> </tr> </table>	第1回	職能概論・建築の工具	第2回	建具工の職能	第3回	大工の職能	第4回	鉄筋工の職能	第5回	鳶工の職能	第6回	左官工の職能	第7回	溶接工の職能	第8回	家具の職能
第1回	職能概論・建築の工具																
第2回	建具工の職能																
第3回	大工の職能																
第4回	鉄筋工の職能																
第5回	鳶工の職能																
第6回	左官工の職能																
第7回	溶接工の職能																
第8回	家具の職能																
教科書	特になし。																
参考書	特になし。																
主な実験・実習機器	特になし。																
成績評価の方法	授業への参加度(20%)、レポート(80%)によって評価する。																
履修上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業には、随時、現代の時事的な問題もふまえていくので、この授業をきっかけとして新聞を読む習慣を付けること。</li> <li>・ 授業の順番は変更する場合があります。</li> <li>・ 成績の採点内容等については成績発表後に適宜対応しますので、希望者は直接申し出るようにして下さい。</li> </ul>																

科目名	建設化学
英文科目名	Chemistry for Construction and Exercises
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	大塚 秀三
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>授業の概要：建設に適用するコンクリート、鉄鋼などの構造材料およびタイル、ガラス、塗料、防水、接着剤などの各種仕上げ材料について、材料間の相性、劣化特性、環境への影響などを主として化学的観点から学び、その基本を理解する。</p> <p>到達目標：材料の化学的性質について理解し、解説できるような知識を身につける。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>第1回授業で配布する資料に基づいて、次回以降の授業では事前に「建築材料用教材」の関連部分を確認して、授業へ臨むようにする。</p> <p>内容が多岐にわたるので、学習した内容をその都度整理し、不明な点については質問する。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンスと建設材料の分類</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>セメント・コンクリートの化学</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>金属（鉄鋼・非鉄金属）材料の化学</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>金属の防錆・防食の化学</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>左官材料・陶磁器質タイル・石材・ガラスの化学</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>防水材料・塗料・建築用仕上塗材・高分子系床材料</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>断熱材料・接着剤の化学、地球環境・健康安全</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>建設化学のまとめと試験</td> </tr> </table>	第1回	ガイダンスと建設材料の分類	第2回	セメント・コンクリートの化学	第3回	金属（鉄鋼・非鉄金属）材料の化学	第4回	金属の防錆・防食の化学	第5回	左官材料・陶磁器質タイル・石材・ガラスの化学	第6回	防水材料・塗料・建築用仕上塗材・高分子系床材料	第7回	断熱材料・接着剤の化学、地球環境・健康安全	第8回	建設化学のまとめと試験
第1回	ガイダンスと建設材料の分類																
第2回	セメント・コンクリートの化学																
第3回	金属（鉄鋼・非鉄金属）材料の化学																
第4回	金属の防錆・防食の化学																
第5回	左官材料・陶磁器質タイル・石材・ガラスの化学																
第6回	防水材料・塗料・建築用仕上塗材・高分子系床材料																
第7回	断熱材料・接着剤の化学、地球環境・健康安全																
第8回	建設化学のまとめと試験																
教科書	日本建築学会編：建築材料用教材、オリジナル配布資料																
参考書	特になし。																
主な実験・実習機器	特になし。																
成績評価の方法	出席状況20%、試験の結果80%として、総合的に評価する。																
履修上の注意点	試験については質疑応当日を最終講義で告知する																

科目名	社会人基礎力育成講座Ⅰ
英文科目名	Fundamental Competencies for Working PersonsⅠ
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	社会人基礎力担当教員
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>【授業概要】① 人を見る力(人から学ぶ力)・人に伝える力を身に付ける  ② ものつくり大学で学ぶ意味と目指す人物像を知る ③ 授業の振り返りを行い、行動計画に対するPDCAを実施する  ④ 社会で生活する上での「マナー」「コミュニケーション」を普段の日常生活から考え、実践する</p> <p>【到達目標】大学生活を通じて社会人基礎力を身に付け、学業を自分から取り組む姿勢を身につける  経済産業省が取りまとめた社会人基礎力とは、前に踏み出す力(主体性・働きかけ力・実行力)・考え抜く力(課題発見力・計画力・創造力)・チームで働く力(発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力)の3つの能力・12の能力要素から成っている。そのうち、3つの能力要素「主体性」「行動力」「発信力」に加えて「コミュニケーション力」を付けることで、大学生活を有意義に過ごすことを目標とする</p>
準備学習(予習・復習)	<p>【予習】 前回の授業の内容を振り返る</p> <p>【復習】 授業で得た気づきを今後の学生生活に活かす</p>
授業の内容	<p>第1回 学び方を考える①  ～大学生活を有意義に過ごすには～</p> <p>第2回 学び方を考える②  ～大学生に必要な力とは～</p> <p>第3回 授業を振り返る  ～振り返る必要性和記録に残すこと～</p> <p>第4回 人に伝えること①  ～授業の内容を理解するには～</p> <p>第5回 学び方を考える③  ～休暇の過ごし方～</p> <p>第6回 学び方を考える④  ～課題を見つけ、目標を決めるには～</p> <p>第7回 学び方を考える⑤  ～インターンシップ先を選ぶために～</p> <p>第8回 人に伝えること②  ～自分の思いを伝えるには～</p>
教科書	必要に応じて資料を配布する(キャリアプランノート持参のこと)
参考書	特になし
主な実験・実習機器	特になし
成績評価の方法	授業への出席度50%、授業内レポート50%
履修上の注意点	社会人基礎力育成講座(Ⅰ～Ⅳ)は、4年生まで継続して履修することが望ましい レポートについては、次回授業で返却する。

科目名	木造基礎および実習 I
英文科目名	Basic Wooden Structure and Practices I
対象	2018建設学科
配当年次	1 年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	小野 泰、横山 晋一、佐々木 晶孝
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要：入学時に購入した木工具のうち刃物類を研磨し、使える状態にする。</p> <p>2. 到達目標：のみ・かんな刃の裏押し、刃の研磨の手順を理解し、それぞれの作業を自ら行えるようにする。その他、両刃のこの基本的な扱い、指金の使い方も習得する。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>予習：実習で使用した刃物（のみ・かんな）は次の実習までに各自研磨しておくこと。</p> <p>復習：実習後には毎週確実にポートフォリオ（実習日誌）を作成すること。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>大工道具、砥石の種類等の説明 刃物の研ぎ方：のみ（1）冠直し・裏押し</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>刃物の研ぎ方：のみ（2）中研ぎ・仕上げ研ぎ</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>刃物の研ぎ方：のみ（3）中研ぎ・仕上げ研ぎ</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>刃物の研ぎ方：かんな（1）裏押し・中研ぎ・仕上げ研ぎ</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>刃物の研ぎ方：かんな（2）裏座の二段研ぎ・鉋台の調整</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>刃物の研ぎ方：かんな（3）試し削り・鉋台の再調整 両刃鋸の使い方：縦挽きと横挽き、差金の使い方：目盛りの説明等</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>のこ挽きとのみを使った加工課題</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>道具箱の制作課題</td> </tr> </table>	第1回	大工道具、砥石の種類等の説明 刃物の研ぎ方：のみ（1）冠直し・裏押し	第2回	刃物の研ぎ方：のみ（2）中研ぎ・仕上げ研ぎ	第3回	刃物の研ぎ方：のみ（3）中研ぎ・仕上げ研ぎ	第4回	刃物の研ぎ方：かんな（1）裏押し・中研ぎ・仕上げ研ぎ	第5回	刃物の研ぎ方：かんな（2）裏座の二段研ぎ・鉋台の調整	第6回	刃物の研ぎ方：かんな（3）試し削り・鉋台の再調整 両刃鋸の使い方：縦挽きと横挽き、差金の使い方：目盛りの説明等	第7回	のこ挽きとのみを使った加工課題	第8回	道具箱の制作課題
第1回	大工道具、砥石の種類等の説明 刃物の研ぎ方：のみ（1）冠直し・裏押し																
第2回	刃物の研ぎ方：のみ（2）中研ぎ・仕上げ研ぎ																
第3回	刃物の研ぎ方：のみ（3）中研ぎ・仕上げ研ぎ																
第4回	刃物の研ぎ方：かんな（1）裏押し・中研ぎ・仕上げ研ぎ																
第5回	刃物の研ぎ方：かんな（2）裏座の二段研ぎ・鉋台の調整																
第6回	刃物の研ぎ方：かんな（3）試し削り・鉋台の再調整 両刃鋸の使い方：縦挽きと横挽き、差金の使い方：目盛りの説明等																
第7回	のこ挽きとのみを使った加工課題																
第8回	道具箱の制作課題																
教科書	『木造建築実技教科書』、雇用・能力開発機構編集、雇用問題研究会、2003																
参考書	課題図面等は授業時にプリントを配布する。																
主な実験・実習機器	<p>受講生が持参する道具：大工道具一式（両刃のこ、かんな、のみ、げんのう他）</p> <p>貸し出される道具：両刃のこ（九寸目）、片刃のこ他</p> <p>作業服は大学指定のものとする（作業服等に問題がある場合は実習に参加できないので注意すること）</p>																
成績評価の方法	出席状況（30%）、課題への取り組みと出来栄（40%）、ポートフォリオ（30%）の内容にて評価する。																
履修上の注意点	木造基礎および実習I・II・III・IV・Vは連携するので、合わせて履修することが望ましい。なお、課題等の評価は、希望者には開示するので申し出ること。																

科目名	木造基礎および実習Ⅱ
英文科目名	Basic Wooden Structure and Practices II
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	林 英昭、戸田 都生男、佐々木 晶孝
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要：木造建築の基本的な接合部（仕口・継手）を4種類制作する。</p> <p>2. 到達目標：「きる」（切る、刈る、剪るに加え、彫、削などを含む）ことを中心に、木材の加工に必要な基本的加工法を身につける。のこ挽き、ほぞ穴のみ加工、かんながけ、孔あけなどの実習を通して、道具の用法、手入れ方法を学び、道具と加工について理解を深める。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>予習：実習で使用した刃物（のみ・かんな）は次の実習までに各自研磨しておくこと。</p> <p>復習：実習後には毎週確実にポートフォリオ（実習日誌）を作成すること。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>墨差と墨壺の準備 鑿・鋸の使用法 短ほぞの制作（1）：墨付け</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>短ほぞの制作（2）：刻み・組立 腰掛け蟻継手の制作（1）：墨付け</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>腰掛け蟻継手の制作（2）：刻み・組立</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>腰掛け鎌継手の制作（1）：墨付け</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>腰掛け鎌継手の制作（2）：刻み・組立</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>追掛け大栓継ぎの制作（1）：墨付け</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>追掛け大栓継ぎの制作（2）：刻み</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>追掛け大栓継ぎの制作（3）：刻み・組立</td> </tr> </table>	第1回	墨差と墨壺の準備 鑿・鋸の使用法 短ほぞの制作（1）：墨付け	第2回	短ほぞの制作（2）：刻み・組立 腰掛け蟻継手の制作（1）：墨付け	第3回	腰掛け蟻継手の制作（2）：刻み・組立	第4回	腰掛け鎌継手の制作（1）：墨付け	第5回	腰掛け鎌継手の制作（2）：刻み・組立	第6回	追掛け大栓継ぎの制作（1）：墨付け	第7回	追掛け大栓継ぎの制作（2）：刻み	第8回	追掛け大栓継ぎの制作（3）：刻み・組立
第1回	墨差と墨壺の準備 鑿・鋸の使用法 短ほぞの制作（1）：墨付け																
第2回	短ほぞの制作（2）：刻み・組立 腰掛け蟻継手の制作（1）：墨付け																
第3回	腰掛け蟻継手の制作（2）：刻み・組立																
第4回	腰掛け鎌継手の制作（1）：墨付け																
第5回	腰掛け鎌継手の制作（2）：刻み・組立																
第6回	追掛け大栓継ぎの制作（1）：墨付け																
第7回	追掛け大栓継ぎの制作（2）：刻み																
第8回	追掛け大栓継ぎの制作（3）：刻み・組立																
教科書	『木造建築実技教科書』、雇用・能力開発機構編集、雇用問題研究会、2003																
参考書	課題図面等は授業時にプリントを配布する。																
主な実験・実習機器	<p>受講生が持参する道具：大工道具一式（両刃のこ、かんな、のみ、げんのう、墨指し、墨つぼ他）</p> <p>貸し出される道具：両刃のこ（九寸目）、片刃のこ、尺矩（尺寸目）他</p> <p>作業服は大学指定のものとする（作業服等に問題がある場合は実習に参加できないので注意すること）</p>																
成績評価の方法	出席状況（30%）、課題への取り組みと出来栄（40%）、ポートフォリオ（30%）の内容にて評価する。																
履修上の注意点	<p>提出課題等の評価は、希望者に開示するので申し出ること。</p> <p>木造基礎および実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴは関連するので合わせて履修することが望ましい。</p> <p>なお本科目は建築士資格試験指定科目（建築生産）および商業施設士補指定科目（A-5 監理・施工）である。</p>																

科目名	木造基礎および実習Ⅲ
英文科目名	Basic Wooden Structure and Practices III
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	横山 晋一、林 英昭
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>〔概要〕 木造建築の基礎的技術である小屋組模型および四方転びプランターを制作する  〔目標〕 原寸図作成、墨付け、加工、組み立ての一連の作業を通じ、実際の加工技術および曲尺技術に触れながら、基礎的な木造建築の接合部の納まり等がどのような加工技術によって実現されるかを理解することを目指す。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>予習：実習で使用した刃物（のみ・かんな）は次の実習までに各自研磨しておくこと。  復習：実習後には毎週確実にポートフォリオ（実習日誌）を作成すること。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>小屋組模型（1）：原寸図作成</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>小屋組模型（2）：墨付け・刻み</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>小屋組模型（3）：刻み・組み立て</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>四方転びプランター（1）：原寸図作成</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>四方転びプランター（2）：墨付け</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>四方転びプランター（3）：墨付け・刻み</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>四方転びプランター（4）：刻み</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>四方転びプランター（5）：組み立て</td> </tr> </table>	第1回	小屋組模型（1）：原寸図作成	第2回	小屋組模型（2）：墨付け・刻み	第3回	小屋組模型（3）：刻み・組み立て	第4回	四方転びプランター（1）：原寸図作成	第5回	四方転びプランター（2）：墨付け	第6回	四方転びプランター（3）：墨付け・刻み	第7回	四方転びプランター（4）：刻み	第8回	四方転びプランター（5）：組み立て
第1回	小屋組模型（1）：原寸図作成																
第2回	小屋組模型（2）：墨付け・刻み																
第3回	小屋組模型（3）：刻み・組み立て																
第4回	四方転びプランター（1）：原寸図作成																
第5回	四方転びプランター（2）：墨付け																
第6回	四方転びプランター（3）：墨付け・刻み																
第7回	四方転びプランター（4）：刻み																
第8回	四方転びプランター（5）：組み立て																
教科書	『木造建築実技教科書』、雇用・能力開発機構編集、雇用問題研究会、2003																
参考書	課題図面等は授業時にプリントを配布する。																
主な実験・実習機器	<p>受講生が持参する道具：大工道具一式（両刃のこ、かんな、のみ、げんのう、墨指し、墨つぼ他）  貸し出される道具：両刃のこ（九寸目）、片刃のこ、尺矩（尺寸目）他  作業服は大学指定のものとする（作業服等に問題がある場合は実習に参加できないので注意すること）</p>																
成績評価の方法	出席状況（30%）、課題への取り組みと課題作品の出来栄（40%）、ポートフォリオ（30%）により評価																
履修上の注意点	<p>提出課題の評価は、希望者に開示するので申し出ること。  木造基礎および実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴは関連するので、合わせて履修することが望ましい。</p>																

科目名	木造基礎および実習Ⅳ
英文科目名	Basic Wooden Structure and Practices IV
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	深井 和宏、戸田 都生男、小野 泰
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>1.授業概要 基礎的な木組みによる木製丸太ベンチを2人で1台制作する。現寸図作成、部材墨付け、加工、組み立て、接合、塗装の一連の作業をととして、木質材料の理解、部品設計技術、加工技術、組み立て技術など木質構造の設計と施工の技術を修得する。</p> <p>2.到達目標 相欠き加工と木ねじによる接合方法、電動工具（インパクトドライバドリル）の基本的な使用方法など、木を「くむ」こと、「接合する」ことを習得し、木質構造を構成するための基本技術を修得する。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>予習：実習で使用した刃物（のみ・かんな）は次の実習までに各自研磨しておくこと。</p> <p>復習：実習のポートフォリオを毎週確実に作成して、技術知識のテキスト化と定着を図ること。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>設計図を基にした現寸図作成</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>道具の整備、木取り、墨付け</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>墨付けⅠ</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>墨付けⅡ</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>刻み加工・組立調整Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>刻み加工・組立調整Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>組立接合：完成</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>塗装仕上げ：完成</td> </tr> </table>	第1回	設計図を基にした現寸図作成	第2回	道具の整備、木取り、墨付け	第3回	墨付けⅠ	第4回	墨付けⅡ	第5回	刻み加工・組立調整Ⅰ	第6回	刻み加工・組立調整Ⅱ	第7回	組立接合：完成	第8回	塗装仕上げ：完成
第1回	設計図を基にした現寸図作成																
第2回	道具の整備、木取り、墨付け																
第3回	墨付けⅠ																
第4回	墨付けⅡ																
第5回	刻み加工・組立調整Ⅰ																
第6回	刻み加工・組立調整Ⅱ																
第7回	組立接合：完成																
第8回	塗装仕上げ：完成																
教科書	『木造建築実技教科書』（雇用・能力開発機構編集、雇用問題研究会） 課題図面等のプリントを授業中に配布する。																
参考書	必要によって適宜紹介する。																
主な実験・実習機器	受講生が持参する道具：大工道具一式（両刃のこ、かんな、のみ、げんのう他） 貸し出される道具：両刃のこ、片刃のこ、尺矩（尺寸目）、インパクト他 作業服は大学指定のものとする。 作業服等に問題がある場合、実習には参加できない。																
成績評価の方法	出席状況（30%）、課題への取り組みと課題の出来栄（40%）、ポートフォリオ（30%）により判断する。 ポートフォリオは、即日返却する。																
履修上の注意点	木製ベンチ制作は2人で一台を制作するため、お互いに協力し、責任を持って作品の制作を行うこと。 木造基礎および実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴは連携するので、合わせて履修することが望ましい。提出課題等の評価は、希望者に開示するので申し出ること。																

科目名	建設足場基礎および実習
英文科目名	Basic Scaffold and Practices
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	澤本 武博、久保 隆太郎
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>概要：建設現場では必要不可欠である仮設について、枠組足場、クサビ緊結式足場および単管足場の図面作成、組立、解体を行う。 到達目標：枠組足場、クサビ緊結式足場および単管足場の図面が作成できるようになり、小規模な足場の組立、解体までできるようになる。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>足場の役割や構成について予習しておくこと。材料の名称を復習しておくこと。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>枠組足場（1） 材料説明、組立図の作成</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>枠組足場（2） 組立図の作成、材料の数拾い</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>枠組足場（3） 足場の組立</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>枠組足場（4） 解体、片付け、番線の使い方</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>クサビ緊結式足場（1） 材料説明、組立図の作成、材料の数拾い</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>クサビ緊結式足場（2） 足場の組立、解体、片付け</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>単管足場（1） 材料説明、組立図の作成、材料の数拾い</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>単管足場（2） 足場の組立（実技試験）、解体、片付け</td> </tr> </table>	第1回	枠組足場（1） 材料説明、組立図の作成	第2回	枠組足場（2） 組立図の作成、材料の数拾い	第3回	枠組足場（3） 足場の組立	第4回	枠組足場（4） 解体、片付け、番線の使い方	第5回	クサビ緊結式足場（1） 材料説明、組立図の作成、材料の数拾い	第6回	クサビ緊結式足場（2） 足場の組立、解体、片付け	第7回	単管足場（1） 材料説明、組立図の作成、材料の数拾い	第8回	単管足場（2） 足場の組立（実技試験）、解体、片付け
第1回	枠組足場（1） 材料説明、組立図の作成																
第2回	枠組足場（2） 組立図の作成、材料の数拾い																
第3回	枠組足場（3） 足場の組立																
第4回	枠組足場（4） 解体、片付け、番線の使い方																
第5回	クサビ緊結式足場（1） 材料説明、組立図の作成、材料の数拾い																
第6回	クサビ緊結式足場（2） 足場の組立、解体、片付け																
第7回	単管足場（1） 材料説明、組立図の作成、材料の数拾い																
第8回	単管足場（2） 足場の組立（実技試験）、解体、片付け																
教科書	<p>オリジナルテキスト（プリント等）を配布する。</p>																
参考書	<p>適宜提示する。</p>																
主な実験・実習機器	<p>枠組足場、クサビ緊結式足場、単管足場、番線、親綱。ヘルメット、安全帯、コンベックス、ハンマー、ノコギリ、ラチェット、番線カッターを持参すること。</p>																
成績評価の方法	<p>出席状況、受講態度、提出課題および実技試験で評価する。提出課題40%、実技試験30%、授業態度30%。</p>																
履修上の注意点	<p>体調管理を十分に行い、体調を整えて授業に出席すること。 危険作業を伴うので、服装（安全装備）を整え、教員の指示に従うこと。受講態度によっては、途中で失格とすることもありうる。 なお、天候によっては授業内容の順序を変更する場合がある。 課題については、採点した後に返却する。 実技試験については、試験終了後に採点し講評を行う。</p>																

科目名	測量基礎および実習
英文科目名	Basic Survey and Practices
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	三原 斉、大垣 賀津雄、田尻 要
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要 建設工事の段取りに必要な測量・墨出し・水盛・遣方等の作業をおこない、測量の概念などを理解する</p> <p>2. 到達目標 規模と用途に応じた道具や器械の用法などについても習得し、建設現場での測量に応用することができるようにする。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>事前：教科書「図説 建築測量」産業図書の関連項目をよく読んでおくこと。</p> <p>事後：実習ノートのレポートを毎回仕上げること。</p>
授業の内容	<p>第1回 測量の内容・測定の誤差と精度、測量器具の種類と使い方</p> <p>第2回 距離測量</p> <p>第3回 距離測量</p> <p>第4回 水準測量 I</p> <p>第5回 水準測量 II</p> <p>第6回 平板測量</p> <p>第7回 トランシッド測量</p> <p>第8回 測量基礎実習の要点整理とレポート作成および提出</p>
教科書	「図説 建築測量」産業図書
参考書	実習テキストを配布する。
主な実験・実習機器	関数機能付きの電卓・コンベックス(5mスケール)・野帳(レベルブック)・赤色鉛筆・黒色鉛筆
成績評価の方法	出席状況(40%)、レポート・取り組み姿勢(60%)により、総合評価する。
履修上の注意点	<p>レポート提出は、提出期限を厳守すること。</p> <p>レポートについては、採点し添削したものを次回の授業で返却する。</p> <p>本科目を履修することが、測量士補資格取得(GSコース)の履修条件である。</p> <p>(GSコース: Geographical Surveyors Course)</p>

科目名	建設製図 I
英文科目名	Construction Drawing I
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	大竹 由夏、林 英昭、藤原 成暁
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>1.授業の概要：製図用具の使い方、線の描き方、等測図・透視図などの各種図法を学びながら、切妻、寄棟等の家屋の基本形を模型で立体的に表現する技法を習得する。</p> <p>2.到達目標：自分が意図するかたちや空間を第三者に伝えるための手法を身につける</p>
準備学習(予習・復習)	<p>事前に教科書を読んでその内容を理解しておくこと。また出題された課題は翌週までに必ず仕上げ提出すること。</p>
授業の内容	<p>第1回 ・授業概要説明・・・・資料01配布 ・製図用具説明 ・持参用具確認(T定規、三角定規大、コンパス、三角スケール、ドラフティングテープ) ・A3用紙に線の練習</p> <p>第2回 線の練習01</p> <p>第3回 線の練習02 (等測・斜投象)</p> <p>第4回 線の練習03 (等測・斜投象・屋根の形)・・・・資料02配布</p> <p>第5回 模型制作 (3つの屋根型の中から最低1つ スチレンボード3mm)</p> <p>第6回 透視図01・・・・資料03配布</p> <p>第7回 透視図02 (外観)</p> <p>第8回 透視図03 (内観)</p>
教科書	<p>藤原成暁『歩く・見る・描く・デザインする-スケッチで脳を触発しよう』彰国社</p>
参考書	<p>特になし</p>
主な実験・実習機器	<p>製図用具一式</p>
成績評価の方法	<p>授業への参加度(20%)と課題作品(80%)により評価する。</p>
履修上の注意点	<p>各段階で学習状況が評価される。また、すべての課題作品は、指示される期日までに提出しなければならない。課題作品は、採点后返却するので申し出ること。</p>

科目名	建設製図Ⅱ
英文科目名	Construction Drawing II
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	深井 和宏、大竹 由夏、岡田 公彦
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>1.授業の概要：木造建築物について名作住宅の設計図面：吉村順三「軽井沢の山荘」をトレースすることによって、建築物を図面によって表現する方法を修得するとともに、それらを作図する能力を身に付ける。</p> <p>2.到達目標：木造戸建住宅の図面表現の基本事項を学ぶとともに、所定の時間内に課題を仕上げるために、自らスケジュール管理を行い、締切を遵守する習慣を身につける。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>教科書の冒頭の2節「はじめに」および「建設製図の基本」を予め読んでおくこと。締切を念頭に、スケジュールに遅れないよう毎回チェックする。スケジュールに遅れが生じた場合は次回授業までに遅れを取り戻しておくこと。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>課題説明及び図面表現について 名作住宅の設計図面1：配置図</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>名作住宅の設計図面2：配置図</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>名作住宅の設計図面3：平面図</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>名作住宅の設計図面4：平面図</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>名作住宅の設計図面5：立面図</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>名作住宅の設計図面6：立面図</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>名作住宅の設計図面7：断面図</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>名作住宅の設計図面8：断面図、全体講評</td> </tr> </table>	第1回	課題説明及び図面表現について 名作住宅の設計図面1：配置図	第2回	名作住宅の設計図面2：配置図	第3回	名作住宅の設計図面3：平面図	第4回	名作住宅の設計図面4：平面図	第5回	名作住宅の設計図面5：立面図	第6回	名作住宅の設計図面6：立面図	第7回	名作住宅の設計図面7：断面図	第8回	名作住宅の設計図面8：断面図、全体講評
第1回	課題説明及び図面表現について 名作住宅の設計図面1：配置図																
第2回	名作住宅の設計図面2：配置図																
第3回	名作住宅の設計図面3：平面図																
第4回	名作住宅の設計図面4：平面図																
第5回	名作住宅の設計図面5：立面図																
第6回	名作住宅の設計図面6：立面図																
第7回	名作住宅の設計図面7：断面図																
第8回	名作住宅の設計図面8：断面図、全体講評																
教科書	<p>藤木庸介ほか『名作住宅で学ぶ建築製図』学芸出版社 2008</p>																
参考書	<p>建築のテキスト編集委員会編『初めての建築製図』学芸出版社 1996</p>																
主な実験・実習機器	<p>製図用具一式、電卓、巻尺、色鉛筆、トレーシングペーパーなど</p>																
成績評価の方法	<p>授業への参加度（20%）と課題作品（80%）により評価する。</p>																
履修上の注意点	<p>各段階で学習の状況が評価される。また課題作品は、指示される期日までに提出しなければならない。作品は、後日返却する。</p>																

科目名	建設製図Ⅲ
英文科目名	Construction Drawing III
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	藤原 成暁、大竹 由夏、戸田 都生男
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>【授業の概要】標準的な事務所建築の写図を通して鉄筋コンクリート造の一般図（平面図、断面図、立面図）及び詳細図（矩計図）の描き方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】製図を通して、設計する技法を習得するとともに、実際のかたちと空間との関係をつかむ。標準的なコンクリート造のディテールを習得する。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>【予習】授業で配布された図面や資料等を確認しておく。</p> <p>【復習】作図した図面を正しく理解し、写図しているか見直す。</p>
授業の内容	<p>第1回 鉄筋コンクリート事務所建築物の製図を行い、建築物の要素やかたちを設計する技法を学ぶ。 対象図面：1階平面図</p> <p>第2回 鉄筋コンクリート事務所建築物の製図 対象図面：1階平面図の製図</p> <p>第3回 鉄筋コンクリート事務所建築物の製図 対象図面：2階平面図の製図</p> <p>第4回 鉄筋コンクリート事務所建築物の製図 対象図面：断面図の製図</p> <p>第5回 鉄筋コンクリート事務所建築物の製図 対象図面：立面図の製図 中間提出</p> <p>第6回 鉄筋コンクリート事務所建築物の製図 対象図面：矩計図の製図1</p> <p>第7回 鉄筋コンクリート事務所建築物の製図 対象図面：矩計図の製図2</p> <p>第8回 採点および講評</p>
教科書	特になし。適宜、プリント等を配布。
参考書	新装版 初めての建築製図 〈建築のテキスト〉編集委員会編 学芸出版社 2007 コンパクト建築設計資料集成 日本建築学会編 (丸善)
主な実験・実習機器	製図用具、A2ケント紙
成績評価の方法	授業への参加度(20%)と課題作品(80%)により評価する。
履修上の注意点	各段階で学習の状況が評価される。すべての課題作品は、指示される期日までに提出しなければならない。課題作品は、採点后返却するので申し出ること。

科目名	建設材料基礎および実習
英文科目名	Basic Construction Materials and Practices
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	澤本 武博、長谷川 正幸、大塚 秀三
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>概要：木材、鋼材、コンクリートの性質を学び、材料試験を行う。そして、各種材料の強度など計算できるようにする。 到達目標：コンクリートの調合ができるようになる。また、各種材料の圧縮強度や引張強度を測定し、計算できるようにする。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>木材、鋼材、コンクリートに関するオリジナルテキストを予習すること。また、毎授業後に復習し、項目ごとにレポートをまとめておくこと。</p>
授業の内容	<p>第1回 建設材料の概要説明。</p> <p>第2回 コンクリートの調合計算。</p> <p>第3回 コンクリート材料（細骨材、粗骨材）の試験。</p> <p>第4回 コンクリートのフレッシュ時の性質の測定。</p> <p>第5回 コンクリートの圧縮強度・ヤング係数等の測定。</p> <p>第6回 木材の圧縮・ひずみ等の試験。</p> <p>第7回 鋼材の引張・ひずみ等の試験。</p> <p>第8回 建設材料基礎の要点整理およびレポート作成</p>
教科書	<p>オリジナルテキスト（プリント等）を配布する。詳しくは黒板等にて指示をする。</p>
参考書	<p>適宜提示する。</p>
主な実験・実習機器	<p>パン型ミキサ、2000kN万能試験機、1000kN万能試験機、1000kN圧縮試験機、研磨機、ノギス。関数電卓を持参すること。</p>
成績評価の方法	<p>レポートと授業態度で評価する。レポート60%、授業態度40%。</p>
履修上の注意点	<p>GSコースの選択科目。 毎回の授業の最後に、レポート作成に必要なデータシートの記入状況を確認し、質疑応答を行う。</p>

科目名	溶接基礎および実習
英文科目名	Basic Welding and Practices
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	大垣 賀津雄、久保 隆太郎
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要：アークによる局所的な高発熱を利用する溶接の実習により多種の溶接実技を習得するとともに安全管理等の法令を学ぶ。</p> <p>2. 到達目標：建設材料として使用される鋼材のに関する知識を習得し、アークによる溶接方法の原理を理解する。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>事前：下記の授業内容について教科書を読んでおくこと。</p> <p>事後：教科書や実習内容を復習し、わからないことは次回の授業で質問できるようにしておくこと。</p>
授業の内容	<p>第1回 アーク溶接の基礎知識／平板溶接訓練実習</p> <p>第2回 アーク溶接の基礎知識／平板溶接訓練実習</p> <p>第3回 溶接施工方法等／すみ肉溶接訓練実習（T型溶接）</p> <p>第4回 溶接施工管理等／すみ肉溶接訓練実習（T型溶接）</p> <p>第5回 溶接条件等／丸棒溶接訓練実習（フレア溶接）</p> <p>第6回 溶接品質管理等／突合せ溶接訓練実習（V型開先溶接）</p> <p>第7回 安全衛生規則と関係法令／実技試験 突合せ溶接（V型開先溶接）</p> <p>第8回 筆記試験、実技追試またはビデオ学習</p>
教科書	「アーク溶接等作業の安全」中央労働災害防止協会編、2016年
参考書	特になし
主な実験・実習機器	溶接機器一式
成績評価の方法	出席状況および技能試験、筆記試験による。 出席状況および技能試験（50%）、筆記試験（50%）
履修上の注意点	修了証は授業を欠席すると取得できない。 試験については、質疑応答日を最終授業で告知する。

科目名	R C 型枠施工基礎および実習
英文科目名	Basic RC Formwork and Practices
対象	2018建設学科
配当年次	1 年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	大塚 秀三、三原 斉、長谷川 正幸
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要 良質なRC構造物を構築する観点から鋳型である型枠の組立やコンクリート打設の方法を習得する。</p> <p>2. 到達目標 型枠工事の使用材料、基本的技能およびコンクリートの打込み・締固め方法の基礎について理解できるようにする。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>事前学習は第1回および第2回の授業で配布されるプリントを読んでおくこと。毎授業の後に復習し、分からなかったことは次の授業で質問できるようにしておくこと</p>
授業の内容	<p>第1回 鉄筋コンクリート工事の基本を学ぶ (1)</p> <p>第2回 鉄筋コンクリート工事の基本を学ぶ (2)</p> <p>第3回 型枠の製作 (1)</p> <p>第4回 型枠の製作 (2)</p> <p>第5回 型枠および鉄筋の組立について学ぶ</p> <p>第6回 コンクリートの調合と打設について学ぶ</p> <p>第7回 脱型および解体、出来形管理</p> <p>第8回 講義のまとめと施工結果のレポート作成</p>
教科書	<p>プリントを授業の時に配布する</p>
参考書	<p>適宜指示する</p>
主な実験・実習機器	<p>ハンマ、墨つぼ、墨さし、コンベックス (5.5mスケール)、さしがね、パール、黒鉛筆、赤鉛筆、野帳 (レベルブック)、ヘルメット、安全帯、安全靴、手袋 (軍手・ビニル手袋)</p>
成績評価の方法	<p>出欠席・授業態度(20%)、レポート (80%) による総合評価とする。</p>
履修上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業の安全に特に留意すること</li> <li>レポートについては採点後に返却する</li> </ul>

科目名	鉄筋コンクリート構造基礎および実習
英文科目名	Basic RC Structures and Practices
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	長谷川 正幸、大塚 秀三、久保 隆太郎
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要 1Qから3Qでの建設材料基礎および実習、建設足場基礎および実習、RC型枠施工基礎および実習で習得した技術・技能をさらに発展させ、鉄筋コンクリート造における基礎部分のモデル構造物を製作することでその施工プロセスを学ぶ。</p> <p>2. 到達目標 鉄筋コンクリート造構造物の基本的な施工方法について理解できるようにする。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>型枠および鉄筋の加工・組立方法、コンクリートの打込み・締固め方法について予習しておくこと。毎授業の後に復習し、分からなかったことは次の授業で質問できるようにしておくこと。</p>
授業の内容	<p>第1回 製作するモデル構造物の概要説明および鉄筋コンクリート造構造物の施工プロセスの概論を学ぶ</p> <p>第2回 フーチングの型枠加工・組立方法を学ぶ</p> <p>第3回 フーチングの配筋方法およびコンクリートの打込み・締固め方法を学ぶ コンクリートの受入検査の方法を学ぶ</p> <p>第4回 柱・梁の型枠加工・組立方法を学ぶ</p> <p>第5回 柱・梁の配筋方法を学ぶ</p> <p>第6回 柱・梁へのコンクリートの打込み・締固め方法を学ぶ コンクリートの受入検査の方法を学ぶ</p> <p>第7回 型枠の脱型・片付け後に施工精度の確認から適切な躯体の出来形のあり方を学ぶ</p> <p>第8回 講義のまとめとレポート作成</p>
教科書	<p>授業の時にプリントを配布する</p>
参考書	<p>日本建築学会 JASS5 鉄筋コンクリート工事標準仕様書・同解説</p>
主な実験・実習機器	<p>加工道具一式（玄翁、ラチェット、コンベックス、ノコギリ、ハッカーなど）、コンクリート打込み・締固め用機械（バイブレータなど）</p>
成績評価の方法	<p>出席状況(20%)と提出したレポート(80%)の内容で判断する。</p>
履修上の注意点	<p>この授業は、鉄筋コンクリート造構造物の施工プロセスを理解するためのものであり、モデル構造物を各班で施工する。この中で、数量表・写真・施工図などの施工記録に関するレポート提出がある。作業の安全には特に留意すること。 レポートについては採点後に返却する。</p>

科目名	左官・タイル基礎および実習
英文科目名	Basic Plastering, Tiling and Practices
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	松岡 大介、三原 斉、久保 隆太郎
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要： 「ぬる」ことは湿式仕上の基本である。本実習では主に左官関連の技法を通して下地と仕上の関係や様々な仕上の技法等を学ぶ。また種々の材料や工法を比較しながら、風土との関係で仕上の意味を理解し、材料の歴史、工法に適した材料の選定などに関して理解を深める。</p> <p>2. 到達目標： セメントモルタル塗りを主とした鏝塗り作業とタイル張りの施工法を体験し学習する。また本実習ではモルタル試験や引張試験を通して、左官作業のみに留まらない品質管理の分野まで施工管理の手法を学び、建設現場で役立つ技術や知識を習得する。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>事前学習は、参考書(左官施工法 日左連編)をよく読んでおくこと。また、毎授業の後に復習し、わからなかったことは次の授業で質問できるようにしておくこと。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>左官の仕事と左官材料および左官構法について学ぶ(講義)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>下地処理・墨出しとセメントモルタルの下塗り</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>セメントモルタルの中塗り</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>セメントモルタルの上塗り</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>陶磁器質タイルと張り工法(講義)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>タイル張り</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>引張試験の概要(講義)と治具の接着</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>引張試験とレポート作成</td> </tr> </table>	第1回	左官の仕事と左官材料および左官構法について学ぶ(講義)	第2回	下地処理・墨出しとセメントモルタルの下塗り	第3回	セメントモルタルの中塗り	第4回	セメントモルタルの上塗り	第5回	陶磁器質タイルと張り工法(講義)	第6回	タイル張り	第7回	引張試験の概要(講義)と治具の接着	第8回	引張試験とレポート作成
第1回	左官の仕事と左官材料および左官構法について学ぶ(講義)																
第2回	下地処理・墨出しとセメントモルタルの下塗り																
第3回	セメントモルタルの中塗り																
第4回	セメントモルタルの上塗り																
第5回	陶磁器質タイルと張り工法(講義)																
第6回	タイル張り																
第7回	引張試験の概要(講義)と治具の接着																
第8回	引張試験とレポート作成																
教科書	<p>オリジナルテキスト(プリント等)を配布する。</p>																
参考書	<p>左官施工法(日左連編)、タイル手帳(全タ協編)</p>																
主な実験・実習機器	<p>特になし</p>																
成績評価の方法	<p>出席状況(40%)、レポート・取り組み姿勢(60%)により、総合評価する。</p>																
履修上の注意点	<p>レポートについては、採点し添削したものを次回の授業で返却する。</p>																

科目名	建設基礎設計 I
英文科目名	Basic Construction Design I
対象	2018建設学科
配当年次	1年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	藤原 成暁、大竹 由夏、岡田 公彦
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>【授業の概要】 「小空間の設計」 自分で建設可能な、10㎡程度の単位空間を設計する。大学内に建設された、ル・コルビュジェ設計による「カップマルタンの休暇小屋」レプリカを体験し、模型制作やスケッチなどで手を動かしながら、小さな空間の中にも様々な建築の可能性を感じとる。また、スタディにおいて形作られた空間から意味や機能を見いだしつつ計画すること。</p> <p>【到達目標】 人間の身体寸法に近いサイズの空間を扱うことで、建築の基本的な寸法やスケール感を習得し、空間の多様性を生み出す構成力と表現方法を身につける。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>【予習】 小空間で構成される既存の建築物について、調査及び体験、資料の収集。</p> <p>【復習】 授業で受けたエスキースチェックをふまえ、次週までに各自の案を発展させる。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>課題説明、設計のポイント解説、小空間の事例紹介及び体験</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>調査発表及びレポート提出、エスキース開始</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>人型とラフ模型制作、空間操作の作業</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>スケール感の把握及び設置場所の決定</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>中間発表、コンセプト決定</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>完成模型制作</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>プレゼンテーション及び最終図面制作</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>講評会及び採点</td> </tr> </table>	第1回	課題説明、設計のポイント解説、小空間の事例紹介及び体験	第2回	調査発表及びレポート提出、エスキース開始	第3回	人型とラフ模型制作、空間操作の作業	第4回	スケール感の把握及び設置場所の決定	第5回	中間発表、コンセプト決定	第6回	完成模型制作	第7回	プレゼンテーション及び最終図面制作	第8回	講評会及び採点
第1回	課題説明、設計のポイント解説、小空間の事例紹介及び体験																
第2回	調査発表及びレポート提出、エスキース開始																
第3回	人型とラフ模型制作、空間操作の作業																
第4回	スケール感の把握及び設置場所の決定																
第5回	中間発表、コンセプト決定																
第6回	完成模型制作																
第7回	プレゼンテーション及び最終図面制作																
第8回	講評会及び採点																
教科書	適宜参考プリントを配布する。																
参考書	<p>『コンパクト建築設計資料集成』 日本建築学会編 (丸善) 2005</p> <p>『名作住宅に学ぶ建築製図』 藤木庸介ほか (学芸出版) 2008</p>																
主な実験・実習機器	持参するものノカッター、カッターマット、金属製定規、製図用具、コンベックスなど																
成績評価の方法	授業への参加度 (20%) と課題作品 (80%) により評価する。																
履修上の注意点	各段階で学習の状況が評価される。すべての課題作品は、指示される期日までに提出しなければならない。課題作品は、採点后返却するので申し出ること。																